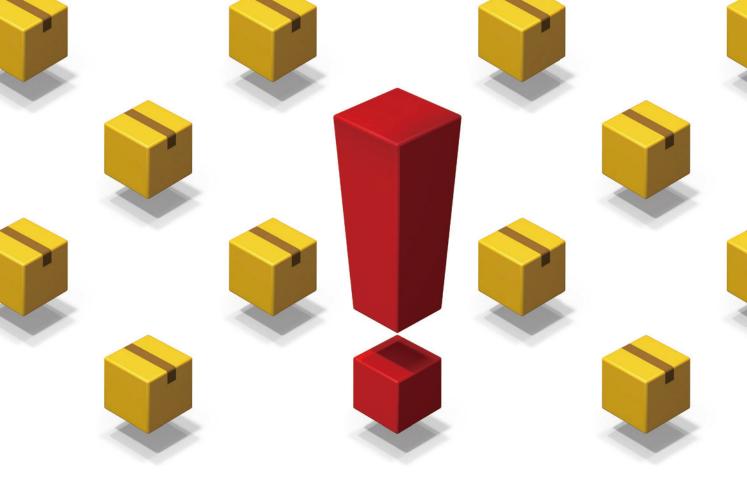
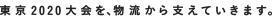
公益財団法人　日本ハンドボール協会 編
平成29年10月1日発行（毎月1回1日発行）　通巻572号

ハンドボール

10
OCT.2017
No.572

●熊本地震復興支援女子ハンドボール国際大会JAPAN CUP 2017
●第７回男子ユース（U-19）世界選手権
●高松宮記念杯第68回全日本高等学校選手権大会
●第46回全国中学校大会
●第30回全国小学生記念大会

公益財団法人　日本ハンドボール協会

世界が驚く、物流をつくろう。

東京2020大会を、物流から支えていきます。

東京2020オフィシャル荷物輸送サービスパートナー

詳しくはこちら http://www.yamato-hd.co.jp/tokyo2020/ 世界が驚く、物流をつくろう。 検索

代表取締役　青木 理恵

販売から賃貸管理までトータルサポート

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方へ不動産を用いたライフプランをご提案しております。
自社ブランドである『YURIKA ROSE』(ユリカ ロゼ)シリーズも順調に分譲中です！
2020年の東京オリンピックに向け、ハンドボール選手と共にこれからも邁進していきますので、どうぞよろしくお願い致します。

私達、株式会社ユリカコーポレーションは女子ハンドボールを応援しています!!

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

みなさまの日頃のご搭乗に、心より感謝申し上げます。
わたしたちは日本で唯一の5スター エアラインです。

おかげさまでANAは、2017年も英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで世界最高評価「5 STAR」を獲得いたしました。お客さまへの感謝の気持ちと日本で唯一の5スター エアラインとしての誇りを翼に乗せて、これからもみなさまを快適な空の旅にご案内いたします。

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER

www.ana.co.jp

5 STAR AIRLINE
SKYTRAX

※2017年3月現在

ハンドボール 10月号 No.572

【表紙の写真】高松宮記念杯第 68 回全日本高等学校ハンドボール選手権大会・女子決勝

CONTENTS

がんばれハンドボール 20 万人会「サポート会員」8 月入会・継続会員

【宮城】小林宏幸、大河原浩気【埼玉】岡部克則【千葉】康本拓史、黒田俊雄【神奈川】花岡美智子【山梨】栗原富貴子【富山】吉田容子、横嶋信生、横嶋好子【愛知】加藤ゆき、筒井理絵、笹野邦雄【三重】岡田　望【岐阜】中島明美【京都】古賀久美【大阪】田中幸二郎、田中いつみ、久保幸子、白鳥貴子【兵庫】柿木國夫【奈良】立原真弓【佐賀】久保田秀光【熊本】井本光次郎【鹿児島】蔵元恵子

次号 11 月号（No. 573）は 11 月 1 日発行予定です。

熊本地震復興支援
女子ハンドボール国際大会
JAPAN CUP 2017

開催期間	2017年8月3日～8月6日
開催地	熊本県・宇城市、人吉市、山鹿市
主催	公益財団法人日本ハンドボール協会、一般財団法人 2019 女子ハンドボール世界選手権大会組織委員会
主管	熊本県ハンドボール協会
特別協賛	オムロン株式会社
オフィシャルパートナー	ヤマト運輸株式会社
会場	ウイングまつばせ、人吉スポーツパレス、山鹿市総合体育館
参加チーム	日本代表、日本リーグ選抜、ポーランド代表、アンゴラ代表

選手団名簿

役職	名前	所属	
強化本部長	田口　隆	（公財）日本ハンドボール協会	
チームマネージャー	栗山雅倫	（公財）日本ハンドボール協会	東海大学
監督	Ulrik Kirkely	（公財）日本ハンドボール協会	
ドクター	井本光次郎	（公財）日本ハンドボール協会	熊本赤十字病院
トレーナー	高野内俊也	（公財）日本ハンドボール協会	日本予防医学協会
トレーナー	岩谷美菜子	（公財）日本ハンドボール協会	ながい接骨院
分析	小笠原一生	（公財）日本ハンドボール協会	大阪大学
分析	嘉数陽介	（公財）日本ハンドボール協会	
通訳	藤田　愛	（公財）日本ハンドボール協会	

背番号	名前	所属	出身校
1	飛田季実子	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	大阪福島女子高校
39	寺田三友紀	北國銀行	大阪体育大学
28	永田しおり	オムロン	福岡女子商業高校
5	塩田沙代	北國銀行	高松商業高校
13	勝連智恵	オムロン	宣真高校
41	河田知美	北國銀行	大阪体育大学
9	横嶋　彩	北國銀行	環太平洋大学
24	原　希美	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
4	角南　唯	北國銀行	大阪体育大学
23	安倍千夏	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	筑波大学
15	多田仁美	三重バイオレットアイリス	日本体育大学
26	川村杏奈	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	東海大学
10	河嶋英里	三重バイオレットアイリス	大阪体育大学
12	板野　陽	広島メイプルレッズ	大阪教育大学
11	堀川真奈	広島メイプルレッズ	大阪教育大学
2	永田美香	北國銀行	四天王寺高校
20	秋山なつみ	北國銀行	大阪体育大学
27	佐々木春乃	北國銀行	大阪体育大学
33	岩渕いくみ	日本体育大学	水街道第二高校
7	藤田明日香	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング	四天王寺高校

【8月3日】

日本リーグ選抜　22(7−9、15−12)21　ポーランド

　平均身長でポーランド代表に対して大きく劣る日本リーグ選抜は、高い5－1DFを敷きスピードで対応。GK田口の好守もあり立ち上がり10分で2対2とロースコアの展開となった。セットOFで攻め切れないポーランド代表は、中盤からポストプレーを軸に展開。相手DFの退場を誘い点差を開きにかかるが、日本リーグ選抜はGKを引き上げて対抗。イナバのサイドシュート等が決まり点差が開かない。ポーランド代表はそれでも、執拗にポストプレーを続け再度相手退場者を出すとモニカのカットインが決まり点差を開く。前半終了間際にはGKを上げ7人攻撃が決まり9対7と2点差にひろげて前半を折り返す。
　後半立ち上がり日本リーグ選抜はサイドシュート・速攻で開始2分、9対9の同点に追いつく。その後は交互に点を取り合う一進一退の攻防が続いたが、13分日本リーグ選抜が退場者を出す間にポーランド代表はマグダのサイドシュート等で16対14と2点リード。しかし、日本リーグ選抜も速いパス展開から高山のポストシュートが立て続けに決まり23分過ぎには19対19の同点に追いつく。その後も交互に点を取り合い残り2分同点の場面で川崎のパスカットから友野の速攻が決まり22対21と日本リーグ選抜が1点リード。ポーランド代表は残り12秒でタイムアウト。ノータイムフリースローまで持ち込んだがモニカのシュートは枠を捉えきれず日本リーグ選抜が逃げ切った。体格差を補うスピードと最後まで諦めない激しい闘争心を見せた日本リーグ選抜の勝利に観客席も大いに盛り上がったゲームであった。

日本代表　29(13−13、16−15)28　アンゴラ代表

　試合開始早々、アンゴラ代表は18番のスピードのあるカットインで2点連取する。対する日本も藤田の速攻から44のカットイン、ミドルシュートで3点連取し、一進一退の攻防が続く。10分過ぎ、日本は、高めのDFから6-0DFにシフトチェンジし、ポストをフリーにさせないようにすると、アンゴラの攻撃が18番の個人技に限られ、守りのリズムが出てきて、GKもセーブを連発する。その間に、日本は、セット攻撃からステップシュート、カットイン、ミドルシュートとバランス良く攻撃し、7対6とリードする。その後は、アンゴラは18番、11番の個人技を中心に得点を重ね、日本も藤田の速攻や7人攻撃を仕掛け、相手の退場を誘うなど、互角の展開で前半を13対13の同点で終了した。
　開始直後から、アンゴラのラフプレーが続き、日本代表は7mTを3本続けて河田が決める。しかしアンゴラも18番のミドルシュートや17番のロングシュート、カットインと粘り強く攻め続けた。その後は、GK板野が10番のポストシュートを連続でセーブし、流れは日本に傾きかけたが、アンゴラも、日本DF

のスペースを 10 番のポストを利用して連続得点、18 分 23 対 22 と日本のリード。そこから日本は 7 人攻撃を仕掛けるも相手にカットされ同点とされる。だが、その後のセット、速攻と永田がポストから得点し 2 点をリード。アンゴラもノーマークを作るのだがシュートミス。17 番がカットインからミドルシュートを決めるも、その後の速攻に対してファール、退場をする。残り時間 2 分で、29 対 26 と 3 点をリードし、最後は 18 番のミドルシュートなどに追い上げられるも、日本は有効に時間を使い逃げ切った。互いに持ち味を出し切った見応えのあるゲームであった。

【8 月 4 日】

日本代表　36（17－12、19－18）30　日本リーグ選抜

日本代表のスローオフで試合が始まる。44 秒に日本代表（以下代表）が河田選手の 7mT スローで先制。2 分 30 秒過ぎには、日本リーグ選抜（以下選抜）の山野選手のミドルシュートで同点。序盤は両チームともスピードのある攻防を見せる。出だしから選抜は退場が 2 回あるが、ポストプレーなどで逆に 4 対 6 と 2 点差をつける。代表は 11 分 57 秒にタイムアウトを取り、立て直しを図る。18 分 20 秒に代表藤田選手のサイドシュートで 9 対 9 の同点に追いつく。20 分 30 秒に代表原選手のサイドシュートで逆転に成功。その後も代表は佐々木選手のカットイン、秋山選手の速攻などで一気に差を広げ、前半を 17 対 12 の日本代表リードで終えた。

後半早々、日本リーグ選抜は吉田選手の速攻で得点する。その後は点の取り合いになるが、日本代表の GK 寺田選手の好セーブ等で、17 分過ぎには 27 対 21 と日本代表が 6 点差をつける。25 分過ぎに選抜は吉田選手の得点などで 3 点差に詰める。この時、代表は退場者を出すも、河田選手のミドルシュートで傾きかけた流れを取り戻す。その後はこの試合 7 得点の藤田選手の活躍もあり、36 対 30 で日本代表が勝利した。この試合の MVP 選手は GK の寺田選手が選ばれた。

8 月 6 日（日）山鹿市総合体育館で開催を予定していました試合は、台風の影響で中止となり、本大会の順位の決定等についての取扱いは、下記のとおりとなりました。

順位について：順位の決定は行わない。

最優秀選手等の表彰について：大会最優秀選手及び優秀選手の選出及び表彰は行わない。

TEAM	勝敗	総得点	総失点
日本代表	2 勝	65	58
ポーランド代表	1 勝 1 敗	51	50
日本リーグ選抜	1 勝 1 敗	52	57
アンゴラ代表	2 敗	56	59

第7回男子ユース(U-19)世界選手権

開催期間　2017年8月8日～8月20日
開催地　ジョージア・トビリシ
主　　催　IHF
会　　場　Olympic Palace Tbilisi

最終順位

順位	国
優勝	フランス
2位	スペイン
3位	デンマーク
4位	クロアチア
5位	スウェーデン
6位	ロシア
7位	ポルトガル
8位	日本
9位	ドイツ
10位	アイスランド
11位	チュニジア
12位	韓国
13位	スロベニア
14位	エジプト
15位	ポーランド
16位	チリ
17位	ノルウェー
18位	セルビア
19位	ブラジル
20位	ジョージア
21位	アルゼンチン
22位	バーレーン
23位	アルジェリア
24位	メキシコ

選手団名簿

役職	名前	所属	
強化本部長	田口　隆	(公財)日本ハンドボール協会	
男子アンダー強化部会長	佐藤壮一郎	(公財)日本ハンドボール協会	大同大学
監督	所　勉	(公財)日本ハンドボール協会	総社高校
コーチ	吉村　晃	(公財)日本ハンドボール協会	(株)豊田合成
ＧＫコーチ	荻田　圭	(公財)日本ハンドボール協会	湯沢孝行
ドクター	大西信三	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学
トレーナー	飯田純一郎	(公財)日本ハンドボール協会	Ｊ・フロントライン
分析	仙波慎平	(公財)日本ハンドボール協会	筑波大学

背番号	名前	所属	出身校
1	高光　凌	国士舘大学	下松工業高校
2	髙野颯太	筑波大学	浦和学院高校
3	末岡拓美	福岡大学	瓊浦高校
4	阿部奎太	国士舘大学	学法石川高校
5	部井久アダム勇樹	博多高校	多々良中央中学校
6	服部将成	明治大学	中部大学付属春日丘高校
7	徳田廉之介	筑波大学	岩国工業高校
9	村木幸輝	関西学院大学	総社高校
10	山田翔騎	関西学院大学	大分高校
12	堀田陽大	大阪体育大学	大阪大学浪商高校
13	矢野世人	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学付属中学校
14	寺島健太	中央大学	興南高校
16	中村　光	日本体育大学	藤代紫水高校
19	本田悠也	法政大学	大分高校
20	山本千尋	立教大学	浦和学院高校
24	蔦谷大雅	大阪体育大学浪商高校	大阪体育大学付属中学校
25	川崎　駿	日本大学	北陸高校
26	戸井凱音	日本大学	釧路北陽高校

戦評

■8月8日

日本　24(12ー12、12ー14)26　アイスランド

予選リーグ初戦は北欧の強豪アイスランド。出だしから押し込まれ、4連続失点となる不利な展開。5分39秒、早めのタイムアウトで仕切り直した後、阿部のシュートで反撃開始。お互いにゴールを取り合う展開になるも、日本は再び3連続失点をゆるし、前半18分、6対12の6点差がつく。ここで日本は突破力のある川崎、山田を投入。彼らの力強い突破が功を奏し3連取で息を吹き返すと、相手の退場を機に確実に加点。12対14まで追い上げて前半を終了する。

後半は阿部の得点で13対14とすると、お互いに点を取り合い5分が経過する。ここから日本は一気に加速し、得意の速攻で末岡、阿部の2連取、さらに、山田、高野、徳田の3連取で後半13分、20対18と試合をひっくり返す。たまらずアイスランドはタイムアウトを請求。試合再開からの10分間7人攻撃をしかける。日本はGK中村のファインセーブが続き、なんとかしのぐもオフェンスでのシュート精度を欠き点が入らない。逆に相手の速攻で3連続失点を浴びる。試合終盤、全員で相手の力強い1対1を体を張って守るも、振り切られて退場者を出してしまう厳しい展開になる。このチャンスを逃さなかったアイスランドが確実に加点し後半28分40秒、22対25と3点リード。日本は残り1分で2点を返すも、1点返され24対26で試合終了。課題はあるもののヨーロッパ勢とも互角に戦える手ごたえを得た。次戦はホスト国のジョージア。序盤から激しくディフェンスしてリズムに乗れるかどうかが鍵となる。

■8月9日

日本　30(14ー9、16ー13)22　ジョージア

予選リーグ2戦目はホスト国のジョージア。事前のミーティングやトレーニングで相手の傾向を分析し、対策して臨んだ。出だしはローテンポなゲーム展開。末岡のシュートで先制するも、その後得点が伸び悩む。しかしディフェンスで日本は躍動する。高野、末岡、服部が積極的に体を当てて相手をはじき返し、GK堀田が相手のシュートをことごとくセーブする。マイボールとなるや阿部を筆頭に人数をかけた1次、2次速攻から次々とシュートを決め、前半13分8対3とゲームの主導権を握る。一気に加速したい日本だったが、激しいボディチェックが裏目にでてしまう。立て続けに退場者を出し、苦しい展開を強いられるも徳田の連打で前半を14対9で折り返す。

後半の出だしは日本が2人退場のディフェンスから始まる。相手のスカイプレーで出鼻をくじかれると、観客の後押しを受けたジョージアに開始5分で3連続失点を浴びる。一気に16対14と2点差まで追い上げられたところでタイムアウト。攻撃のねらい所、ディフェンスの勝負所を確認し、試合再開。ここで日本ベンチが動く。村木に変え、司令塔に山田を投入。ジョーカー的な役割で攻撃のテンポを変化させる。相手ディフェンスを翻弄し、6mライン際のスペースを作り出すと高野、末岡らピヴォット勢がシュートを叩き込み再び主導権を握る。ディフェンスではGKを中村にスイッチ。相手のシュートを立て続けにセーブしチームを盛り上げると、速攻で飛び出したのは村木、末岡、高野。次々と相手のディフェンスラインを突破しゴールや2分間退場を量産。後半24分7点差と試合を決めた。次戦のドイツ戦を視野に入れた日本ベンチはここでリザーブメンバーを投入。攻撃では山本、川﨑、本田、守っては寺島が残り時間の要所を締めて30対22と更に点差を広げて試合終了。次戦から部井久ら3名が合流する。攻守の布陣で選択肢を増やしてドイツ戦に臨みたい。

戦評

■８月11日

日本　18(9−22、9−12)34　ドイツ

　予選リーグ３戦目はハンドボール大国ドイツが相手。部井久、矢野、蔦屋３名の選手変更を行い、攻守の選択肢を増やした日本。開始早々部井久のミドルが決まる。ディフェンスでもゴール前に密集をかけてドイツに単純な突破をさせない互角の展開に持ち込む。しかしドイツは攻撃の狙いをアウトサイドへ徹底する。日本のディフェンス陣をゴール前中央に集めた後、両ウイングにボールを散らして弱点を突く攻撃を展開。ここをしのぎたかった日本だが立て続けにウイングシュートを叩き込まれると、嫌なムードが攻撃にも伝染。ミスからのターンオーバーで次々とノーマークシュートを浴び５連続失点と一気にリードを許す。なんとか打開策を見出したい日本だが、その後も10分間ノーゴールと厳しい状況へ追い込まれる。再び９連続失点してしまい、９対22で前半終了。
「戦術よりも戦う姿勢」そんな言葉がロッカールームに響いた後、13点差を追う日本の後半戦が始まった。出だしからフットワーク良く相手のオフェンスをはじき返してターンオーバーを量産。ようやく持ち味の「人数をかけた１次、２次速攻」が出始める。村木、徳田らが立て続けにゴールを決めて３連取と追い上げムードに。すかさずドイツはセーフティファーストでタイムアウトを要求。日本は良い流れを何とか維持したかったが、落着きを取り戻したドイツに再びゲームを支配される。精神的に厳しい状態でのゲームとなったが、次戦以降を考え、全員が集中力を切らさず戦いきった点は評価に値する。34対18と大差はついたが、試合終了のホイッスルがなった瞬間から次のチリ戦へ向けての準備はすでに始まっている。

■８月12日

日本　35(17−15、18−12)27　チリ

　予選リーグ４戦目は南米のチリが相手。勝てば決勝トーナメント進出へ大きく近づく今大会最も重要な試合の１つ。若干セットフェンスで固さがみられた日本だが、２分過ぎたあたりで左右の主砲部井久、徳田がエンジン全開。ロング、ミドル、カットインとチリのディフェンスを切り裂く。できた裏のスペースから髙野が得点と理想的な展開で３連取を２回と好調の出だしで７対３とする。たまらずチリは６−０から５−１へシフトチェンジし、日本のバックコート陣の走り込みとパスワークを分断しにかかる。走りこんだ１対１を封じられた日本のオフェンスは後手に回り、得点が伸び悩むも、GK堀田を中心としたディフェンスで踏ん張り、簡単には失点しない。そのまま点を取りあい前半を17対15と２点リードで折り返す。
　後半戦は日本が２人退場からスタート。開始早々失点するが、嫌なムードを断ち切ったのはこの試合ラッキーボーイの蔦谷。速攻で19点目を叩き込むとここから日本の速攻が炸裂。徳

戦評

田、髙野をはじめ４連取で抜け出す。10分過ぎで日本ベンチは阿部をレフトバックに投入。攻撃のテンポを変え、主導権を握ったまま試合を進める。16分過ぎには26対20と６点差がついたところで部井久をレフトバックへ再投入、このベンチワークが功を奏し、部井久は立て続けにセットオフェンスで強烈なロングシュートを叩き込む。「試合を決めるなら今」と言わんばかりに集中力を高めた日本は蔦谷、阿部らがボールにからみ怒涛の５連取と一気にスパート。後半26分、33対24と試合を決めた。最終的に35対27と８点差で快勝。勝ち点を４に伸ばした。予選リーグ突破が濃厚となり、次戦以降は新たな目標を再設定するコートでチームのテンションを維持したい。

■８月14日

日本　29(17−10､12−11)22　アルジェリア

　予選リーグ最終戦はアフリカのアルジェリアが相手。事前のミーティングで「アルジェリアに勝ち３位通過する」と目標を新たに設定し試合に臨んだ。ディフェンスのポイントは３つ。相手の巨漢ピヴォット、左側のウイング・バックそしてセンターバックに対するチェックを怠らないコート。この日はGK堀田がエンジン全開。立て続けに好セーブを連発し得意の速攻へ持ち込む展開を作り出し、寺島がシュートを叩き込む。セットオフェンスでは左右の主砲、部井久、徳田にボールを集めながら、相手が釣りだされたところでピヴォット、ウイングへ散らす理想的な展開。村木のゲームコントロールが光った。終盤に３連取を２回と猛攻を仕掛け17対10と、ゲームの主導権を握ったまま進んだように見える前半だったが、ディフェンスでのリバウンドボールの処理でことごとく相手に負け失点を許す嫌な感触が残った。ハーフタイムは「リバウンドで体を張る」を再徹底して後半に臨んだ。

　出だしも、２連取と好調のスタート。しかし直後にリバウンド処理でことごとく相手に拾われ３連続失点を許す。リードしているが異様な雰囲気に包まれた日本だったが、セットオフェンスでのミドルがよく決まり13分過ぎで23対15となんとか踏みとどまる。しかしついに相手のペースに飲み込まれると16分から24分まで８分間ノーゴールの苦しい展開になる。この間３連続失点とアルジェリアに23対18と５点差まで追い上げられる。攻撃のテンポを変えたい日本ベンチはセンターバックに山田を投入。広い１対１の局面を作り出すと自らシュートを２連続でねじ込み加点。落着きを取り戻した日本は終盤に髙野、阿部、徳田の３連取で29対21とし見事３勝目を挙げ、決勝トーナメント進出を決めた。３大会連続出場の日本だがベスト16入りは初の快挙である。次戦は予選Ａグループ２位のエジプトと当たる。決勝トーナメントを戦えることに喜びを感じながら、まずは事前のミーティングからしっかりと準備して行きたい。

■８月16日

日本　31(10−14､21−16)30　エジプト

　決勝トーナメントの１回戦の相手はアフリカのエジプト。事前のトレーニングやミーティン

戦評

グではディフェンスでのルーズボール死守、オフェンスでは相手の５－１をどう切り崩すかに焦点が置かれた。前半はロースコアの展開。お互い攻め手を欠いて守りあう中、均衡が崩れると一気に連続失点を食らうスリリングなゲームとなった。部井久、末岡が出だしで２連取したかと思えばエジプトも負けじと３連取、２連取と反撃開始。日本も臆することなく 13 分過ぎから蔦谷、末岡の２連取、徳田が一人で３連取と反撃し 25 分で 10 対９と日本１点リード。しかし安心もつかの間、エジプトが５連取と怒涛の反撃。日本がオフェンスでイージーミスを連発したところを一気に狙われ 10 対 14 と４点ビハインドで前半を折り返すこととなる。ハーフタイムの雰囲気は予選リーグのドイツ戦とどこか似通っていた。「戦う気持ちを出そう」そんな言葉がロッカールームに響き渡り、気持ちを新たに後半戦に臨んだ。

　開始早々、失点した日本だったが、蔦谷、徳田らが３連取し 14 対 16 とエジプトを射程圏内へ捉える。しかし再びエジプトが５連取と猛攻を浴びせ後半10分14対21と７点差をつける。ここで日本はディフェンスの布陣を６－０から矢野をトップに据えた５－１へスイッチする。コートプレーヤー６人が積極的にボールを狩る姿勢が功を奏し、インターセプトを量産。12 分から 17 分までのわずか５分間で８連取と猛ラッシュ。試合を一気にひっくり返した。後半20分、日本の勢いは止まらず再び村木、髙野、矢野で３連取し 27 対 25 と２点リード。試合は１点を取り合う白熱の展開へとなっていく。日本が得点すれば、エジプトもパワーを前面に押し出した力強い１対１を何回もしかけて喰らい付く。そんな緊迫した試合に終止符を打ったのは日本だった。残り１分 30 対 29 と日本１点リードの場面で、GK 中村が相手のウイングショットを渾身のセーブでマイボールにする。すかさず日本ベンチはチームタイムアウトを要求。早打ちせずパッシブまで粘るコートを確認して運命のラストアタックに臨んだ。試合再開早々エジプトは日本の徳田にマンツーマンをしかける。ここで機転を利かせたのは村木。右バックポジション付近に流れてフリースローをもらう。そしてフリースローポイントから３mエリア内に徳田を置き、相手のマンツーマンを外した状態を作り出す。再開後、ボールを左へ展開した瞬間、慌てて再びにマンツーマンをしに来た相手ディフェンスの動きを徳田は見逃さなかった。迷わず裏のスペースへ走り込み阿部からのラストパスを受けるとゴール前中央から値千金の 31 点目を叩き込む。最後に１点返されるも 31 対 30 と見事な逆転勝利でベスト８進出を決めた。日本ハンドボールの歴史に新たな１ページを刻み、次戦はベスト４をかけスペインと対戦する。

■８月 17 日　日本　27(12－15､15－17)　32　スペイン

■８月 19 日　日本　28(10－17､18－17)34　スウェーデン

■８月 20 日　日本　26(13－14､13－20)34　ポルトガル

男子世界ユース選手権：過去の大会結果

回数	1	2	3	4	5	6	7
開催年月日	2005	2007	2009	2011	2013	2015	2017
開催地	カタール	バーレーン	チュニジア	アルジェリア	ハンガリー	ロシア	ジョージア
参加国数	10	16	20	20	24	24	24
日本順位	—	—	—	—	17位	20位	8位

優勝	セルビアモンテネグロ	デンマーク	クロアチア	デンマーク	デンマーク	フランス	フランス
2位	韓国	クロアチア	アイスランド	スペイン	クロアチア	スロベニア	スペイン
3位	クロアチア	スウェーデン	スウェーデン	スウェーデン	ドイツ	アイスランド	デンマーク
4位	デンマーク	アルゼンチン	チュニジア	フランス	スペイン	スペイン	クロアチア
5位	カタール	エジプト	デンマーク	エジプト	ノルウェー	スウェーデン	スウェーデン
6位	エジプト	ポーランド	スペイン	スイス	スウェーデン	ノルウェー	ロシア
7位	アルゼンチン	スペイン	ドイツ	ドイツ	セルビア	デンマーク	ポルトガル
8位	イラン	バーレーン	ノルウェー	クロアチア	スロベニア	ブラジル	日本
9位	チュニジア	ブラジル	フランス	スロベニア	ブラジル	スイス	ドイツ
10位	モロッコ	カタール	イラン	アルゼンチン	ハンガリー	ハンガリー	アイスランド
11位	—	韓国	アルゼンチン	韓国	ルーマニア	ロシア	チュニジア
12位	—	イラン	エジプト	ブラジル	ベラルーシ	セルビア	韓国
13位	—	チュニジア	カタール	ロシア	フランス	韓国	スロベニア
14位	—	アルジェリア	アルジェリア	セルビア	エジプト	クロアチア	エジプト
15位	—	モロッコ	ブラジル	カタール	カタール	エジプト	ポーランド
16位	—	オーストラリア	リビア	チリ	オーストリア	チュニジア	チリ
17位	—	—	プエルトリコ	バーレーン	日本	ドイツ	ノルウェー
18位	—	—	ベネズエラ	チュニジア	アルゼンチン	カタール	セルビア
19位	—	—	クエート	ガボン	チュニジア	ポーランド	ブラジル
20位	—	—	モロッコ	ニュージーランド	ベネズエラ	日本	ジョージア
21位	—	—	—	—	韓国	アルゼンチン	アルゼンチン
22位	—	—	—	—	アンゴラ	ベネズエラ	バーレーン
23位	—	—	—	—	ガボン	アルジェリア	アルジェリア
24位	—	—	—	—	チリ	チリ	メキシコ

新刊
ハンドボールスキルアップシリーズ
目からウロコのDF戦術
スポーツイベント・ハンドボール編集部 編著
B5判　144ページ　1,800円+税　発行元 グローバル教育出版

ハンドボールに欠かすことのできないDF。そのDFについて、1対1の守り方から始まり、チームとしての守り方まで、日本を代表する指導者が解説しています。
また、DFシステムについても詳細に紹介。「DF」ならこの1冊にお任せください。

既刊
目からウロコの個人技術
1,800円+税

株式会社スポーツイベント 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-4-2 TEL:03-3253-5941 FAX:03-3253-5948

高松宮記念杯
第68回全日本高等学校
ハンドボール選手権大会

開催期間　2017年8月4日〜8月10日
開 催 地　福島県・福島市
主　　催　（公財）全国高等学校体育連盟、（公財）日本ハンドボール協会、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会
共　　催　読売新聞社
主　　管　（公財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部、福島県高等学校体育連盟、福島県ハンドボール協会
後　　援　スポーツ庁、（公財）日本体育協会、日本放送協会、（公財）福島県体育協会、福島市体育協会
特別協賛　大塚製薬
協　　賛　JTB、マイナビ、カンコー学生服
会　　場　県営あづま総合体育館、福島市国体記念体育館、福島市西部体育館、福島県立福島商業高校体育館

■最終順位

男　子

優　勝	法政大学第二高等学校（神奈川県）
準優勝	県立氷見高等学校（富山県）
第３位	北陸高等学校（福井県）
	府立洛北高等学校（京都府）

女　子

優　勝	佼成学園女子高等学校（東京都）
準優勝	高水高等学校（山口県）
第３位	県立不来方高等学校（岩手県）
	県立水街道第二高等学校（茨城県）

■優秀選手

男　子

高橋　海（法政第二）
藤田龍雅（法政第二）
内田歩夢（法政第二）
大畠洋斗（法政第二）
朝野翔一朗（氷見）
中村有哉（氷見）
安平光佑（氷見）
林　凌雅（洛北）
千葉海斗（洛北）
中村　翼（北陸）
中村仁宣（北陸）
部井久アダム勇樹（博多）
藤川翔大（岩国工業）
岡田　将（香川中央）
青沼健太（昭和学院）

女　子

田村瑠璃（佼成学園女子）
須田希世子（佼成学園女子）
金城ありさ（佼成学園女子）
瀧川璃紗（佼成学園女子）
岡田彩愛（高水）
横田希歩（高水）
碓井鈴果（高水）
齊藤詩織（水海道第二）
小林可奈（水海道第二）
吉田有沙（不来方）
中村歩夢（不来方）
竹内万生（高岡向陵）
伊藤愛莉（名古屋経済大学市邨）
笠　泉里（明光学園）
日野星花（今治東中等教育）

平成29年度インターハイを終えて

福島県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長
小俣 宏之

平成 29 年度全国高等学校総合体育大会兼高松宮記念杯第 68 回全日本高等学校ハンドボール選手権大会を無事に終了することができました。まず、本大会開催にあたり、ご支援、ご協力をいただいた多くの皆様、そして素晴らしい試合を展開してくださいました選手・監督・審判員の皆様に感謝を申し上げます。

本年度の全国高等学校総合体育大会は「繋がる絆　魅せよう僕らの若き力」の大会スローガンのもと「はばたけ世界へ　南東北総体 2017」を大会愛称に南東北３県で開催されました。ハンドボール競技は県営あづま総合体育館をメイン会場として福島市の体育館４会場６コートを使用して８月４日の開会式から８月 10 日の決勝戦・閉会式までの７日間の開催となりました。

準備につきましては、神奈川インターハイ、大阪インターハイ、山口インターハイを視察させていただき、それを参考にスムーズな大会準備を進めてまいりました。４会場のうち２会場はハンドボールコート２面がとれ、空調設備が完備されており、あと２会場には仮設空調を設置し、全国的にも大変良好な試合環境を提供することができました。また、今年度から前日等の練習会場を設けなかったので、各チームには不便をかけることもありましたが、おおむね混乱もなくチーム毎に対応していただきました。

競技運営に関しましては、(公財）日本ハンドボール協会、(公財）全国高体連ハンドボール専門部と協議し、TD と両レフェリー間のインカムの使用、オフィシャルのパドルと記録にはパソコンを導入し、公式記録用紙とランニングスコアを配布できるように準備を行いました。また、地元のオフィシャル研修を重ね、大会前日の TD、審判員研修でも入念に打ち合わせを行いました。特に競技委員長の中山学先生、審判長の島村浩信先生、事務局の比留間康先生には丁寧にご指導をいただき正確な競技運営に努めることができました。

開会式は県営あづま総合体育館でコンパクトながらも選手全員参加の形で実施しました。諸会議等も全て一つの施設で行えたので、選手・監督、運営役員ともにまとまりのあるスタートが切れました。

８月５日からの試合では、趣向を凝らした応援、満員の観衆で盛り上がる中、白熱した試合が数多く展開されまし

た。メイン会場の県営あづま総合体育館では福島工業、女子会場の福島市国体記念体育館では郡山女子大学附属、いわき総合と地元のゲームがあり、一進一退の好ゲームが展開され、会場は大いに盛り上がりました。２回戦目からの学校法人石川は全国大会強豪校の沖縄県の興南を破り３回戦進出し観客を熱狂に沸かしました。大会を通じて、どのゲームも紙一重の差で勝敗が決する素晴らしいゲームとなりました。

最終日の決勝戦、女子は春の全国選抜大会優勝の佼成学園女子と全国選抜大会準優勝の水海道第二を準決勝で破った高水との対戦となりました。脚を使ったディフェンスとスピードのあるオフェンスを 60 分間展開した佼成学園女子が高水を圧倒して春夏連覇を果たしました。最後までゴールを目指してプレーした高水でありましたが、エースの怪我もあって本来の力を十分発揮できなかったことは残念でした。しかし観客からは賞賛の声が上がっていました。男子もまた春の全国選抜大会優勝の法政大学第二と全国選抜大会では法政大学第二に敗れた氷見との対決となりました。リベンジに燃える氷見は序盤から一進一退の攻防を繰り広げましたが、前半終盤法政大学第二に９連続得点を許してしまい、その後は緊迫した互角の展開が続きました。後半氷見は追い上げるも法政大学第二 GK の好セーブもあり、法政大学第二が見事に初優勝を遂げました。

大会を終えるに当たり、多大なご支援、ご指導を受け賜った（公財）日本ハンドボール協会、全国高体連ハンドボール専門部、福島県ハンドボール協会の皆様に感謝を申し上げるとともに、早朝から夜遅くまで献身的に働いてくださいました大会役員の皆様、笑顔を絶やさず、ひたむきに役割を果たしてくれた高校生補助員の皆さん、そして２年間、高校総体準備室で大会準備に労をいとわず、私と共に働いてくださいました福島市実行委員会の皆様にあらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

男子優勝 法政大学第二高等学校（神奈川県）

法政大学第二高等学校ハンドボール部主将　藤田 龍雅

平成 29 年度全国高等学校総合体育大会（以下インターハイ）で私たち法政大学第二高等学校は優勝することができました。

３月の全国選抜大会を優勝という最高の結果で終えることができ、４月以降８月を目標に再スタートしました。特にウェイトトレーニングの回数を増やし、夏に向けてさらにコンタクトに強い体づくりをしてきました。５月の関東大会県予選、６月の関東大会・インターハイ予選と順調に勝利し、８月のインターハイに臨むことになりました。初戦の大切さは常に阿部先生に伝えられていましたが、前半かたさが目立ち、なかなかリズムに乗ることができませんでした。しかし、ハーフタイムでやるべきことの確認をし、全員の動きがよくなり 12 点差で勝利することができました。最大のポイントは準々決勝でした。後半残り８分で６点負けという状況です。ここで、これまで３年間の成果が出ました。「最後まであきらめない」「チャンスはチャンス。ピンチもチャンス！」「ピンチを楽しむ！」コートの７人、ベンチに控えている選手、観客席で声をからし応援している仲間、すべての力が集結し、チームで逆転することができました。このピンチを乗り越え、チームはさらに自信をつけ、まとまり、開き直り、準決・決勝の最高のパフォーマンスにつながりました。大会を通して、オフェンスで頑張る者、ディフェンスで体をはる者とそれぞれが自分の役割に徹したことが大きな勝因であったと思います。

春に続き、２つ目の目標であるインターハイ優勝を達成することができましたが、課題も多く残りました。秋の国体に向けてその課題を克服しさらに成長する努力をしていく決意であります。

また大会を通して、たくさんの方々の支えがあったことを実感しました。一週間大会を運営していただいている福島県の方々、全国各地から来ていただいている審判の方々、高体連役員の方々、そして先生、スタッフ、応援してくれている両親、数え切れないくらいの方々に支えていただいた結果であることを忘れずに今後もハンドボールに打ち込んでいきたいと思います。

女子優勝 佼成学園女子高等学校（東京都）

心構えの大切さ

佼成学園女子高等学校ハンドボール部コーチ　安藤 希沙

この度は平成 29 年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会高松宮記念杯第 68 回全日本高等学校ハンドボール選手権大会で優勝させていただき、支えて下さいました皆様方ありがとうございました。優勝した瞬間は様々な思いで感無量となり涙が溢れ出ました。

3 月に行われました全国高校選抜大会で優勝させていただいてからチームはモチベーションの上がらない日々が続きました。指導者は過去の経験から “今” をどう過ごすべきかを選手に伝え続けましたが「このままではインターハイ優勝はできないと」と頭では理解しているが、どうしてもモチベーションが上がらない。様々な事と葛藤し、彼女らなりに苦しんでおりました。

大きなきっかけは、6 月初旬に行われました関東大会です。決勝戦で敗れ準優勝となりました。この敗戦が頭と心の両方で“もう一度日本一になるためのチーム作り”に励むための気付きとなりました。それは、自分達の生活・練習への取り組み方＝心構えの見直しです。本当に日本一に向かっているのか？自分を問い、仲間を問い、毎日の生活を何度も振り返り、その度に日本一になる心構えを確認しました。時にはミーティングで終わる日もありましたが、その 1 つ 1 つが「自分達が優勝する」という確信に変わっていきました。まさに失敗からの学びです。ここからチームは心・技共に一気に成長しました。関東選抜大会 3 位、関東大会準優勝と “無敗” とは程遠いチームですが “日本一になるという心構え” “決意” を何度もする事が 2 冠に繋がった大きな要因だと思います。

今大会を運営して下さいました皆様方、本校をいつも応援して下さいます中学校の先生方、東京都ハンドボール協会の皆様、東京都高体連の先生方、お世話になりました大学の皆様、本校関係者の方々、後援会の方々、本当にありがとうございました。

最後になりますが、3 年生 13 名で 3 年間活動して参りましたが、インターハイでユニフォームを着られなかった（着させてあげられなかった）8 名の選手がチームを最後まで懸命に支えてくれました。ここに感謝を述べさせていただきます。「ユニフォームを着てコートには立てなかったけれど、8 人は佼成の “尊敬のユニフォーム” を着て皆と一緒に最後まで戦ってくれました。本当にありがとう !!」

戦評：男子

■準決勝　法政大学第二　33(16－13､17－14)27　北陸

北陸・吉田のポストシュートで幕を開けた試合は、激しい点の取り合いとなる。中村（翼）がうまくボールをさばき谷口・前田らが得点をあげる北陸に対し、法政大学第二はキャプテン藤田がミドルシュート・速攻を次々と決め、一進一退の展開となる。17 分過ぎに速攻から加藤のシュートが決まり、さらに 20 分過ぎの 2 度にわたる数的優位の場面で着実に加点した法政大学第二が、GK 高橋の再三にわたるファインセーブもあって 16 対 13 の 3 点リードで後半を迎える。

後半立ち上がり、法政大学第二の速攻が出始め、4 連続得点でゲームを完全に支配する。北陸も中村（翼）の個人技で応戦するが、法政大学第二は連続得点を許さない。北陸は 10 分過ぎから高めのディフェンスで相手のリズムを崩そうとするが、法政大学第二は大畠・藤田のキーパーのタイミングを外す巧みなシュートなどで着実に得点していく。北陸も落田のポストシュートなどで得点をあげるが、法政大学第二が危なげなく勝ち切った。

北陸は GK 笹本を中心によく守ったが、準々決勝で得点源であった前田・中村（仁）が抑え込まれたのが痛く、準決勝で涙をのんだ。

■準決勝　氷見　35(19－15､16－18)33　洛北

氷見は、ディフェンスからの速攻と素早いパス回しからのミドルシュートで優位に試合を進め勝利をつかんだ。

前半の立ち上がりは、セットプレーから洛北・福田のミドルシュートで先制する。すぐさま氷見は、安平のブラインドシュートで追いつく。9 分洛北は、ウイングプレーヤー井上が速攻からシュートを決め 3 点のリードを奪う。対する氷見も安平を中心に攻撃を仕掛け、13 分に同点とする。前半の終盤、氷見・バックプレーヤー窪田がセットプレーからミドルシュートを決めチームが勢いづいた。リードを許した洛北は、7 人攻撃から林・福田のミドルシュートで挽回を図るが、4 点差をつけられ前半を折り返す。

後半は、洛北はディフェンスラインを上げ氷見にプレッシャーをかけた。オフェンスのリズムが崩れた氷見からボールを奪い、速攻の展開から追い上げを見せる。対する氷見も GK 戸谷の好セーブで洛北の反撃を許さない。その後も、両チームとも一歩も譲らない一進一退の試合展開となる。とても内容の濃い好ゲームを展開したが、洛北は前半の失点が最後までひびいた。

■決勝　法政大学第二　38(20－12､18－20)32　氷見

男子決勝戦は第 1 シード法政大学第二が個人スキルの高いオフェンスと GK 高橋を中心とした堅いディフェンスで氷見を下し、初優勝を飾った。

速攻や清水のロングシュートで得点を重ねる氷見、速いパス回しから西・大畠の巧みなシュートで得点をあげる法政大学第二、両チームが持ち味を出しながら互角の展開となる。22 分過ぎの白築のポストシュートを皮切りとした 3 連続得点で流れは法政大学第二に傾く。氷見のタイムアウト後、リズムに乗った法政大学第二の 4 − 2 ディフェンスはより激しくなり、GK の好守もあって得点を許さない。速攻も出始めた法政大学第二が得点を重ね、8 点差をつけた。

後半、氷見は速攻や窪田・安平の打点の高いロングシュートで得点を重ねる。一方、法政大学第二は焦ることなくキャプテン藤田を中心に巧みなパスワークから得点をあげ、点差をキープしていく。氷見は 18 分過ぎに法政大学第二・藤田、大畠にマンツーマンをつけ、相手の攻撃のリズムを崩しにかかる。すると、安平のステップシュートなどで残り 5 分で 5 点差まで追い上げる。しかし、法政大学第二は焦ることなく試合を進め、38 対 32 で逃げ切った。

氷見は持ち味の攻撃力を十分に発揮したが、試合を通じてシュートミスが目立ったのが悔やまれる。

戦評：女子

■準決勝　佼成学園女子　20(11−8、9−11)19　不来方

3試合全てで相手を圧倒して勝ち上がってきた第1シード佼成女子と、接戦をものにして準決勝に進出した不来方の試合は、接戦をものにした佼成女子が薄氷の思いで決勝の切符を手にした。

佼成女子の3ー3ディフェンスに対し、不来方はスペースに走りこみながら吉田のカットインシュートや中村のポストシュートなどで得点をあげる。一方、佼成女子は高さのある不来方ディフェンスに苦しみ、小坂のサイドシュートや金城のミドルシュートで加点するものの、流れを握るまでには至らない。それでも終了間際の滝川のミドルシュートで3点差をつけて前半を終了した。

後半、速攻からの新沼のシュートなどで3連続得点をあげた不来方が流れをつかみ、14分過ぎには大窪のポストシュートで逆転に成功する。一方、佼成女子も瀧川のカットインシュートですぐに同点に追いつき、試合は白熱していく。17分過ぎには両チームが相次いで退場者を出すが、互いに連続得点を与えない。同点で迎えた26分、植松の連続得点でリードした佼成女子が追いすがる不来方を1点差で振り切った。

惜しくも敗れた東北チャンピオン不来方は、高さに加えて全員がよく走り、春の選抜優勝校をあと1歩のところまで追い込んだ。会場全体がその姿に拍手を贈る素晴らしい試合であった。

■準決勝　高水　31(16−10、15−13)23　水海道第二

高水は、途中からエース横田を欠き、苦しむ場面も見られたが、チーム一丸となってゴールを守りシュートにつなげるひたむきな姿勢で勝利を呼び寄せた。

前半の立ち上がり、水海道二は、ウイングプレーヤー古谷のサイドシュートで先制点を挙げる。一方、高水は横田のシュートフェイクからのカットインプレーでゴールを決め、すぐさま同点にする。高水は、3−2−1ディフェンスから速攻に持ち込みオフェンスの流れをつかむ。12分水海道二は、タイムアウトを請求しオフェンスの修正を図るが、高水の積極的なディフェンスを攻めきれず苦戦を強いられる。試合中盤、高水はGKの3連続ファインセーブでさらにチームが勢いづく。反撃したい水海道二は、セットオフェンスから小林のロングシュートで応戦するが前半を6点差で折り返す。

後半、追いかける水海道二は、6−0ディフェンスから積極的に牽制を入れ、高水の攻撃リズムを崩す。すると、8分水海道二は、山岸のパスカットから速攻に持ち込み、古谷がシュートを決め、1点差に詰め寄る。さらに14分セットオフェンスから小林がミドルシュートを決め、同点に追いつく。応戦する高水は、セットプレーから江本・岡田らのカットインプレーで突き放す。後半に巻き返しを図った水海道二であったが、前半の失点が最後までひびいた。

■決勝　佼成学園女子　31(16−4、15−13)17　高水

女子決勝戦は、脚を使ったディフェンスとスピードあるオフェンスを60分間展開した佼成女子が高水を圧倒して春夏連覇を果たした。

高水は佼成女子の3−3ディフェンスに対しピボットプレーヤー亀谷のスクリーンプレーで活路を見出そうとするが、佼成女子GK田村の好守により、岡のサイドシュートによる得点などに抑え込まれる。一方、佼成女子は立ち上がりこそミスが目立ったが、中盤に4連続得点をあげ主導権を握る。たまらず高水はタイムアウトを請求しオフェンスの修正を図るが、佼成女子のアグレッシブなディフェンスを打ち破ることができない。逆に佼成女子はウイングプレーヤー小坂の角度のないサイドシュートが次々と決まり、大差をつけて前半を折り返す。

後半に入り高水はセンタープレーヤー岡田のカットインからのシュートや横田の7mTなどで得点を重ねるが、試合の流れを変えることはできない。結局、エース金城などのシュートで得点を重ねた佼成女子が31対17で勝利した。

最後までゴール目指してプレーした高水であったが、エース横田の怪我もあって本来の力を十分発揮できなかったことは残念であった。

不来方
KOSEI
水海道二
TAKAMIZU

第46回
全国中学校大会

「第 46 回全国中学校大会」の写真は全て大阪フォトサービスの提供です

開催期間　2017年8月17日～8月20日
開 催 地　沖縄県・那覇市、豊見城市
主　　催　（公財）日本中学校体育連盟、（公財）日本ハンドボール協会、沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、豊見城市教育委員会
主　　管　九州中学校体育連盟、沖縄県中学校体育連盟、沖縄県ハンドボール協会、島尻地区中学校体育連盟
会　　場　沖縄県立武道館、豊見城市民体育館、那覇市民体育館

最終順位

男子

優　勝　名古屋市立滝ノ水中学校（愛知県）
準優勝　安芸高田市立甲田中学校（広島県）
３　位　宇城市立松橋中学（熊本県）
　　　　浦添市立神森中学校（沖縄県）

女子

優　勝　大分市立原川中学校（大分県）
準優勝　大阪市立住吉第一中学校（大阪府）
３　位　東久留米市立西中学校（東京都）
　　　　浦添市立神森中学校（開催地：沖縄県）

表彰選手

男子

【優秀選手】
楠本颯大（愛知県名古屋市立滝ノ水中学校）
大竹徹大（愛知県名古屋市立滝ノ水中学校）
尾谷浩希（愛知県名古屋市立滝ノ水中学校）
首藤岳飛（広島県安芸高田市立甲田中学校）
小先勇輝（広島県安芸高田市立甲田中学校）
岩﨑琢未（熊本県宇城市立松橋中学校）
伊禮颯雅（沖縄県浦添市立神森中学校）

女子

【優秀選手】
幡東妃美希（大分県大分市立原川中学校）
石川　空（大分県大分市立原川中学校）
山崎　晶（大分県大分市立原川中学校）
喜田ことみ（大阪府大阪市立住吉第一中学校）
西川姫那（大阪府大阪市立住吉第一中学校）
田場心晴（沖縄県浦添市立神森中学校）
伊藤結衣（東京都東久留米市立西中学校

大会を振り返り

第46回全国中学校ハンドボール大会
実行委員会事務局長　与久田　学

「感動！夢舞台！！　絆をつなげ　九州の地で」の大会スローガンのもと「平成29年度全国中学校体育大会　第46回全国中学校ハンドボール大会」を８月17日～20日の４日間にわたり、沖縄県那覇市の県立武道館と豊見城市の豊見城市民体育館にて開催しました。

両会場では、各ブロックの厳しい予選を勝ち抜いてきた代表チームが集まる中、激戦が繰り広げられ、男子は、昨年度準優勝の愛知県名古屋市立滝ノ水中学校が悲願の初優勝に輝き、女子は春の全国中学生ハンドボール選手権大会を圧倒的な強さで制した、大分県大分市立原川中学校が春夏連覇の偉業を達成する結果となりました。また、開催地である沖縄県勢が４校出場し、神森中学校の男女が共に第３位という好成績を収め地元開催に花を添えてくれました。

本県での全国中学校ハンドボール大会の開催は、第29回大会以来、17年ぶり２度目の開催となりました。２巡目の開催とはいえ、当時、精力的に競技や運営に取り組まれていた先生方のほとんどが、現在は校長・教頭の職についており、当時を経験している先生方は、ごくわずかという中での準備スタートとなりました。２年前の開催県岩手県花巻市、先催県の石川県金沢市を視察させて頂きましたが、大会会場と周辺施設（駐車場等）の規模

の大きさに圧倒され、沖縄の会場とのスケールの違いを痛感しました。しかしそこは開き直り、全国から来県なさる選手・チーム役員、保護者、大会役員、審判員等の皆さんに「沖縄に来て良かった」と思ってもらえるよう「限られた施設環境でも可能な限りの工夫とおもてなしをしたい」と考えて運営を行ってきました。

空調完備の大会会場、コンパクトな大会運営を大前提とし、当初、３会場での運営予定を２会場に減らしました。競技運営面では、２年前から開催しているJOC全国大会での運営経験を活かし、競技役員・生徒役員が連携しスムーズな競技運営ができるよう心がけてきました。式典運営においては島尻地区中体連の役員が率先して動き、今大会を成功へと導いてくれました。また、それぞれの役割を責任を持って取り組んでくれた沖縄県中体連ハンドボール専門部の役員、沖縄県ハンドボール協会の役員、生徒役員として献身的に動いてくれた県内中学生ハンドボール部員、様々なアドバイスを下さりテクニカルデレゲートも快く引き受けて下さった先輩方が一致団結し大会運営に取り組むことができました。深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、今大会を開催するにあたりご尽力頂きました（公財）日本中学校体育連盟、（公財）日本ハンドボール協会、沖縄県、那覇市、豊見城市、九州中学校体育連盟、沖縄県中学校体育連盟、沖縄県ハンドボール協会、島尻地区中学校体育連盟、そして各協賛各位に改めて厚くお礼を申し上げますとともに、次年度開催県である山口県大会の成功を祈念して、今大会のお礼のあいさつとさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

男子優勝 名古屋市立滝ノ水中学校（愛知県）

すべての方々に感謝

滝ノ水中学校ハンドボール部監督　深見 忠司

この度は、平成29年度全国中学校体育大会・第46回全国中学校ハンドボール大会において優勝することができ、大変嬉しく思っております。これもひとえに、ご支援、ご協力いただいた学校関係者の方々、保護者の方々、愛知県、そして名古屋市の先生方のおかげであると深く感謝しております。また、大会開催にあたり、大会準備、運営にご尽力いただいた関係機関、関係各位の皆様に心よりお礼申し上げます。

今年度は、昨年度の全国大会で準優勝したチームでユニフォームを着ていた選手は誰もいません。また、ハンドボールを小学校から経験した選手も誰もいません。そんな中、選手たちは「先輩たちを超えたい」と目標を掲げました。そこで、今までの練習メニューをもう一度整理すると同時に、新たなメニューなども取り入れることで、ハンドボールに必要な個々のスキルを高め、組織力も高めていきました。

新人戦では、愛知県で優勝でき春の全国大会へ出場することができました。もちろん目指すは日本一でしたが…優勝した大阪体育大学浪商中学校に負けてしまい、ベスト8で大会を終えました。やはり、小学校経験値の壁は、まだ厚いと感じ、9月から始まったチーム作りで春の全国大会までの7ヶ月では…という思いと、7ヶ月でここまでの結果を得られたという自信とを実感しました。また、登録チーム数が全国一多い愛知県で、全国大会へ出られる保証はありません。名古屋市の春季大会では、平針中学校に決勝戦で1点差で勝利するなどレベルの高さを実感し、もう一度、目標を「日本一！」とし、生徒と共に夏に向けてトレーニングを始めました。春までの課題であったDFの強化と立体DFへの対応、シュート確率のアップなど、個々の課題とチームの課題を明確にし取り組みました。そして、組織的なDFで守り、連携したOFで点を取れるようになるとだんだんとチームの状態が上向きになりました。名古屋市・愛知県・東海大会と徐々にチームのバランスもよくなり、心技体ともにすべてをそろえて全国大会に臨めたと思っ

ております。

そして全国大会。「絶対に日本一へ！」を合い言葉にチームは、試合を重ねるごとに強くなり、相手のOFやDFの特徴を理解し、自分たちが目指す組織的なハンドボールを展開していきました。特に、最後の決勝戦で見せたDFの集中力は素晴らしく、どんどん上手になっていくチームを見ながら試合中に感動してしまっている自分がいました。試合が終わり、優勝が決まり、胴上げをしてくれた選手たちに伝えた一言は「ありがとう。」でした。自分の指導を信じてついてきてくれた、そしてそれを真面目に続けた選手たち、また、全力でそのサポートをしてくださった保護者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後に、ハンドボールに熱中する自分へいつも励ましの言葉をかけ続けてくれる妻、また今年生まれた娘の存在がとても大きく、自分を支えてくれている妻と娘に感謝したいと思います。「ありがとう。」

感 謝

滝ノ水中学校ハンドボール部主将　**尾谷 浩希**

２年生の９月、新チームになり、僕たちの代がスタートしました。チームの目標は『先輩を越えて、全国制覇』でした。昨年の先輩たちは、夏の全国大会の決勝で惜しくも負けてしまいました。

初めの僕たちは、市の大会や練習試合で負けてばかりでした。そんなとき、深見先生がJOCの監督だったということもあり、JOCのメンバーの方々と練習をさせてもらえるようになりました。上手な先輩たちとの練習のおかげでチームは少しずつ勝てるようになり、市大会で優勝し、県大会でも優勝することができました。春の全国大会に出場することが決まり「全国大会でも優勝したい」と思いました。そこで僕たちは、部活がない日もみんなで公園に集まって走り込みをしたり、筋トレをしたりしました。しかし、春の全国大会では、準々決勝で３点差で負けて、ベスト８で終わってしまいました。敗因は、立体ディフェンスを上手に攻めることが出来なかったからです。自分たちが練習してきた成果を出せずに負けてしまい、とても悔しい思いをしました。

３年生になり、その悔しさを胸に、他校の中学生・高校の先輩・大人の方々とたくさんの練習試合や実践形式の練習をさせていただきました。この練習が僕たちの大きな成長につながり、市大会から全国大会まですべて負けずに優勝することができました。その中でも全国大会の決勝戦では、ディフェンスからリズムをつくり自分たちのペースにもっていき、立体ディフェンスなどにもしっかりと対応でき、『滝ノ水中全国大会初優勝』につながったと思います。それに加え、全試合においてベンチ入りしているメンバー全員が試合に出場することができたのでよかったです。全員で勝利を掴むことができました。このメンバーと全国制覇という最高の形で終えることができて嬉しいです。

最後に、『全国制覇』ができたのはたくさんの方々の支えがあったからです。僕たちを日本一に導いてくださった先生方、僕たちの練習に付き合ってくださった高校生・他校の中学生の方々、僕たちの練習を毎週末に見に来てくれ、試合では必死に応援してくださった保護者の方々、本当に感謝しています。ありがとうございました。

女子優勝　大分市立原川中学校（大分県）

原川中学校ハンドボール部監督　甲斐 万起子

はじめに、平成 29 年度第 46 回全国中学校ハンドボール大会の開催にあたり、ご尽力いただきました沖縄県ハンドボール協会の皆様、関係者の皆様方に心よりお礼申し上げます。

今大会において悲願の優勝を成し遂げることができました。また、春の全国大会に続き、2 冠の達成となりました。

4 月。出会った選手たちは、春を制したとは思えないほど貪欲で向上心があり、すでに連覇に向けて走り始めていました。夏を勝ち抜くために必要なことは、守備を強化すること。悩み苦しみながらもチームで守ることを最優先にして、自分たちのスタイルを築いていきました。全国大会での勝負どころの 1 点は、5 ヶ月間、磨きをかけてきた守備からの速攻でした。春夏連覇を果たし、彼女たちが貫いてきたことは、耐えて守り抜いてこそ得意の速攻が生かせるということ。それを証明できた大会であったと思っています。「もう一度日本一になる」と、挑戦者として夏の全国を目指す一方で、練習試合を含む、どの試合も負けられないというプレッシャーがあるなか、自分たちで何度も話し合い、さまざまな困難を乗り越えた選手たち。それこそがチームの強さの原点であったと確信しています。そして、何より藤下コーチと選手との間にあった厚い信頼関係が土台になっていたことに他なりません。全ての時間をチームのために注ぎ、時に厳しい言葉をかけながらも、最後まで選手を信じ、コミュニケーションを大事にして、共に日本一を目指すコーチの姿に、私自身、多くの学びがありました。日本一のチームにわずかな時間でも関われたこと

を誇りに思います。

最後に、今大会に至るまで、大分県ハンドボール協会の皆様、原川中学校の先生方をはじめ、多くの方々から多大なるご支援をいただきました。また、保護者の皆様におかれましては、惜しみないサポート、温かいご声援をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

原川中学校ハンドボール部主将　石川　空

試合終了のブザーが鳴った瞬間、「やったー！」という喜びよりも「よかった」という安心感の方が大きかったというのが素直な気持ちです。

私たちは、春の全国大会で優勝したその時から「夏も日本一になる」と目標を掲げました。しかし、春夏連覇までの道のりは、そう簡単なものではありませんでした。周囲の方々からの期待に応えようとすればするほど、「勝ちたい」という気持ちより、「私たちは負けてはいけない」という気持ちの方が強くなり、それが自分たちへのプレッシャーとなりました。時にはチーム内で意見が合わず、言い合いになることもありました。しかし、そのたびにお互いが納得するまで話し合い、一つひとつ自分たちで解決してくことで、一層チームの絆が深まっていきました。

今回の大会で一番苦しかった試合は、開催地である沖縄県神森中学校との決勝進出をかけた試合でした。試合開始から、なかなか自分たちのペースにならず、相手にリードされたまま前半を終えました。私たちは、今まで一度も相手にリードを許して前半を終えたことがなかったので、正直、不安な気持ちもありました。しかし、「ここで負けられない」と全員で声をかけ合い、強い気持ちで後半に臨み、自分たちの持ち味である『守って速攻』を貫いて勝利することができました。この試合を自分たちで乗り越えたことで、チームの力はより強くなったと思います。決勝では、『最後は最高に！』を合言葉に挑みました。1点差まで詰め寄られたこともありましたが、15人全員でひとつになったことで、このチームとしての最後の大会を最高の形で終えることができて本当にうれしかったです。

春夏連覇は、自分たちの力だけでできたものではありません。私たちが日本一になるために、厳しくも温かく指導していただいた藤下コーチ、甲斐先生、どんな時でも私たちのことをずっと見守ってくれた保護者の方々、今まで私たちを支え、応援してくださったたくさんの方々のおかげです。ただただ、感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

限られた資源だから、有意義に使っていきたい。
命あるものたちが共存する地球だから、
快適な環境を守っていきたい。
計測・制御の専門メーカーとして時代をリードする大崎は、
ユニークな発想と探究心で省エネ、省力化機器など、
つねに技術革新をこころがけています。

大崎電気工業株式会社

本社　〒141-8646 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア TEL.(03)3443-7171(代表)

戦評：男子

■準決勝

甲田　35(16ー15､19ー16)31　松橋

前半序盤、松橋中は岩﨑の力強いシュート、速攻等で開始５分、５対１とリードする。そのまま勢いに乗ると思われたが、甲田中は５分過ぎから司令塔小先のドリブルからの得点や、GK 笹村の好セーブで少しずつ点を重ね、21 分首藤のサイドシュートでついに13対12と逆転に成功する。その後互いに点を取り合い、甲田中の１点リードで前半を終える。

後半に入るとスタートから甲田中は首藤、小先、前川の３連続得点で一気に突き放しにかかる。すかさずタイムを取った松橋中は少しずつ落ち着きを取り戻して点差を詰めていき、15 分松永のポストシュートで１点差に詰め寄る。その後一進一退となるが、甲田中は GK 笹村の度重なる好セーブや姉ヶ山、首藤の得点等で再び引き離し、35 対 31 で甲田中が決勝進出となった。

■準決勝

滝ノ水　23(11ー7､12ー8)15　神森

試合開始早々、滝ノ水中大竹の 7mT を含む３連続得点で主導権を握る。神森中の４－2DF に対し、滝ノ水中は尾谷、大竹の個人技などで加点し、９対３と点差を広げる。前半 15 分から、神森中の DF が機能しはじめ、照屋の速攻、宮里のサイドシュートなどで３連続得点し追い上げをみせる。11 対７の滝ノ水中リードで前半を終える。

後半、神森中は３－２－1DF、６－0DF とシステムを変更するが、滝ノ水中は慌てることなく攻撃し、神森中は個人技の展開からノーマークシュートを打つものの、滝ノ水中 GK 楠本に阻まれ流れを掴むことができなかった。結局、23 対 15 で滝ノ水中が勝利し、決勝戦に駒を進めた。

■決勝

滝ノ水　25(12ー6､13ー9)15　甲田

甲田中のスローオフで始まった男子決勝戦は、滝ノ水中が榊原のサイドシュートで先制。その後、滝ノ水中が大竹、上床、尾谷の連続得点で４対０としたところで、甲田中のタイムアウト。巻き返しを図る甲田中は、小先を起点にした展開から得点をした。一方、滝ノ水中も甲田中の３－3DF に対して走りを使った OF で攻め、得点を重ねた。中盤になると滝ノ水中の堅い DF と GK 楠本の好セーブにより攻めあぐねる甲田中に対して、滝ノ水中は大竹、榊原が得点し、12 対６の滝ノ水中が６点リードで前半を折り返した。

後半、巻き返しを図りたい甲田中は、原田のロングシュート、小先のカットインなどで得点をするが、滝ノ水中も一歩も引かず得点を重ね、互いに譲らない展開となった。その後、甲田中の DF もパスカットなど高い DF の長所が出始めるが、それを速攻につなげることができず思うように得点が伸びなかった。OF では走りを使って甲田中 DF を攻め続け、堅い DF と GK 楠本の好セーブにより甲田中の OF を退けた滝ノ水中が 25 対 15 で悲願の初優勝を果たした。

戦評：女子

■準決勝

原川　23(8ー10､15ー８)18　神森

原川中・山崎の速攻による先取点で始まった女子の準決勝。原川中はフローター石川を中心にミドルシュートやポストシュートで攻撃を組み立てる。神森中は視野外やクロス攻撃から４連続得点して試合の主導権を握った。神森中の高い３－２－1DF に阻まれ、なかなか攻撃の糸口をつかめない原川中は３点リードされたところでタイムアウト。何とかリズムを取り戻したいところだったが、前半は 10 対８と神森中が２点をリードして折り返す。

後半に入り、原川中が石川の速攻を皮切りに萩尾のサイドシュートやポストシュートで３連続得点し、逆転。徐々に点差を広げていく。一方、神森中もタイムアウトを取り、ダブルポストの攻撃スタイルに変えて DF の崩しにかかるが、原川中の高い DF を破れずに苦しむ。中盤に入っても原川中は石川の鋭いステップシュートや萩尾のサイドシュートが決まり、主導権を握ったまま 23 対 18 で勝利を握った。

■準決勝

住吉第一　19(９ー13､10ー５)18　東久留米西

試合開始早々、東久留米西中・山本が２連打を決めてスタート。その後、東久留米西中が速攻や多彩なコンビネーションプレーで着実に得点を重ね、10 対３と大きくリードする。東久留米西中の厳しいチェックディフェンスに攻めあぐんでいた住吉中も 20 分過ぎから喜田の２連打でリズムをつかみ、前半終了時には４点差まで追い上げた。

後半は、互いに厳しいディフェンスを崩すことができず一進一退の攻防が続いた。その後、住吉中がミドルシュート、カットインと得点を重ね一気に追い上げ、後半 20 分には同点に追いつく。残り５分の勝負となったが、住吉中・愛佳のカットからの速攻が決め手となり、熱戦にピリオドを打った。

■決勝

原川　21(10ー６､11ー10)16　住吉第一

春の全国大会を制し二冠に臨む原川中と氷見北部中、東久留米西中を接戦の末に破ってきた住吉第一中との女子決勝。開始早々、安東の３連続ゴールで気を吐く原川中に対し住吉第一中も西川のポストシュート、小泉のサイドシュートで応戦。中盤両チームともに堅いディフェンスが続くが、萩尾の速攻、岩本のサイドシュートで原川中が連続得点。11 分、住吉第一中がタイムアウトをとり、再開後、高橋の２連続カットインシュートで 14 分には７対６の１点差に。その後、一進一退の攻防が続くが、20 分過ぎ GK 幡東の好セーブから萩尾の連続速攻や山崎のサイドシュートで原川中が引き離し、10 対６と原川中の４点リードで前半を終了。

後半に入り、原川中は、石川のロングシュート、三浦のポストシュートで着実に得点していく。一方、住吉第一中・喜田がロングシュート、カットインシュートなど後半５得点と気を吐き、後半 10 分には２点差まで追い上げを見せた､しかし､原川中が山崎､安東の速攻などで引き離し、要所を押さえて前半のリードを守り切り、春夏連覇を達成した。

京田辺市制20周年記念
第30回 全国小学生ハンドボール記念大会

開催期間　2017年8月3日〜8月6日
開 催 地　京都府・京田辺市
主　　催　公益財団法人日本ハンドボール協会
共　　催　京都府京田辺市
主　　管　京都府ハンドボール協会
後　　援　（予定）スポーツ庁、（公財）日本体育協会・日本スポーツ少年団、京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会、（公財）京都府体育協会、京田辺市教育委員会、（特非）京田辺市社会体育協会、近畿ハンドボール協会、NHK 京都放送局、KBS 京都、京都新聞、洛南タイムス社、京たなべ・同志社スポーツクラブ
会　　場　京田辺市田辺中央体育館・同志社大学デイヴィス記念館

男子優勝：桃園ハンドボールクラブ

男子
優　勝　桃園ハンドボールクラブ（京都府）
準優勝　小金井ハンドボールクラブ（東京都）
第３位　北陸電力ジュニアブルーロケッツ（福井県）
第３位　能美ジュニアハンドボールクラブ（石川県）

女子
優　勝　十三ジュニアハンドボールクラブ（富山県）
準優勝　コザクラブ Jr.ハンドボールクラブ（沖縄県）
第３位　三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）
第３位　群馬ジュニアハンドボールクラブ（群馬県）

女子優勝：十三ジュニアハンドボールクラブ

男子優勝：桃園ハンドボールクラブ

全国制覇の礎は人のつながり

桃園ハンドボールクラブ　七里 教証

昨年の全国準優勝。登頂への切符を得たものの全国屈指の豊富な運動量に堅い DF、展開を予測して一瞬の判断で走り出す速攻、DF の後手を誘い常にオフェンス優位を生み出すオフザボールの北陸電力ブルーロケッツとの決勝戦。終始優勢にゲームを運ばれて、志半ばで、悔しい下山を余儀なくされました。「下りこそ慎重にしなくてはならない。挑戦してきた道を一歩一歩、大切に降りていこう。」と声を掛けた日から一年。今年の全国の決勝に思いを馳せた桃園セブンに再び登頂への挑戦を許されました。

就任から５年、一年目は、北國銀行で活躍する田邊夕貴選手らの育成に桃園で携われた当時の西城監督や、前任の石田監督が築いてこられた桃園の土台をもとに引き継ぎを行いました。これまでの指導者が大切にされてきたチームとの引き継ぎに甘えるのではなく、諸先輩方との関係を結ぶのは私自身であり、その姿勢こそがこれからの桃園を築いていくという考えに至るまでに時間はかかりませんでした。

監督交代とともにプライベートな大会や交流会も少なくなり模索を続ける頃、チームづくり・運営・技術指導を惜しみなくご教授して下さったのが東海 HBS の濱野健一監督でした。東海セブンとの練習で体験したことを京都に帰り学びにする。この繰り返しが続き、度重なる愛知への遠征は、家庭の負担も大きく保護者の理解なしには成立しませんでした。トレーニングの合間に、繰り広げられる選手の胸に届く一言一句が、強烈なメッセージとして余すことなく届きました。それは、豊かな人間性を形成していく上で大切な願いが詰め込まれていて、指導者として影響力を持つ私こそが持ち合わせ無くてはならない資質だと痛感させられました。三重の笹川 HBC の大橋監督からも交流のお声を頂いたり、人生の先輩として助言して頂いたりと、「繋げて頂くことで得るものの大きさに感動の日々」でした。ハンドボールと真摯に向き合う中、第一回永平寺カップのチャンスを頂き、当時お声をお掛け頂いた、安居ブルーサンダーの松山総監督。前年の決勝後も変わらず、気にかけてくださり選手の育成にご助言を下さった北陸電力の田中監督。光陽 Jr. の増田監督といった福井県の皆様にも本当にお世話になりました。今回の優勝を語る上で必要不可欠なエピソードです。濱野先生をはじめ、当時からのスタッフ・選手・保護者の皆様。失礼ながらお名前は挙げませんでしたが、切磋琢磨して頂いた全国のチームの皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

全国優勝への大会における山登りは、今年も難所が幾つもあり、２回戦の HC 春吉 Jr.（福岡県）との対戦は 21 対８と点差はついたものの、２nd は２枚目の牽制の甘さが原因となり、DF のリズムが崩れ、それを見逃さなかった春吉セブンの攻撃を受け４対４という、苦しい時間になりました。この修正が簡単には出来ないことは、全国の強豪と対戦してきた経験から容易に理解しました。持ち味を取り戻したのは、岩国レインボーキッズ戦の終盤でした。これまで、ビハインドゲームの組み立て方をメンタルトレーニングを導入しながら積み重ねてきたことで、落ち着いて延長戦を迎えることが出来ました。決勝は、個々の素晴らしい能力を束ねる経験豊富な得居監督率いる小金井 HBC の怒涛の攻撃に苦戦しましたが、ポジションチェンジによるオープン攻撃に加え、DF チェンジにより単調になりかけた攻撃に対して、相手の目線運動を注視して、迷わずクロスアタックを仕掛けることができたのが勝利の要因と考えます。小学生のハンドボールの育成に「コーディネーション TR・体幹・バランス TR・股関節や肩甲骨の TR・判断力を伴う TR・試合経験」と沢山の時間を費やせたのも、全国の多くの方々との繋がりだと深く感謝しております。

これからも繋がりの輪を広げていき桃園セブンは次のステージに向けて力強い一歩踏み出しております。中学・高校と、何処かでお世話になる時があるかと思います。何卒宜しくお願い致します。

女子優勝：十三ジュニアハンドボールクラブ

「全国制覇」

十三ジュニアハンドボールクラブ　小嶋 永治

これは、子供たち、監督、コーチ、保護者が春から掲げていた目標です。その目標を達成するために、日々努力をしてきました。その努力が実り、うれしい気持ちでいっぱいです。

十三ジュニアハンドボールクラブは 2011 年に仏生寺小学校と湖南小学校の統合にともなって発足しました。前チームである仏生寺スポーツ少年団は全国優勝２回、準優勝７回という輝かしい歴史があり、前監督の西裕之監督、林外美コーチらが熱心に指導されてきました。その歴史を受け継ぎ、今回は十三ジュニアハンドボールクラブとしての２度目の全国大会でした。

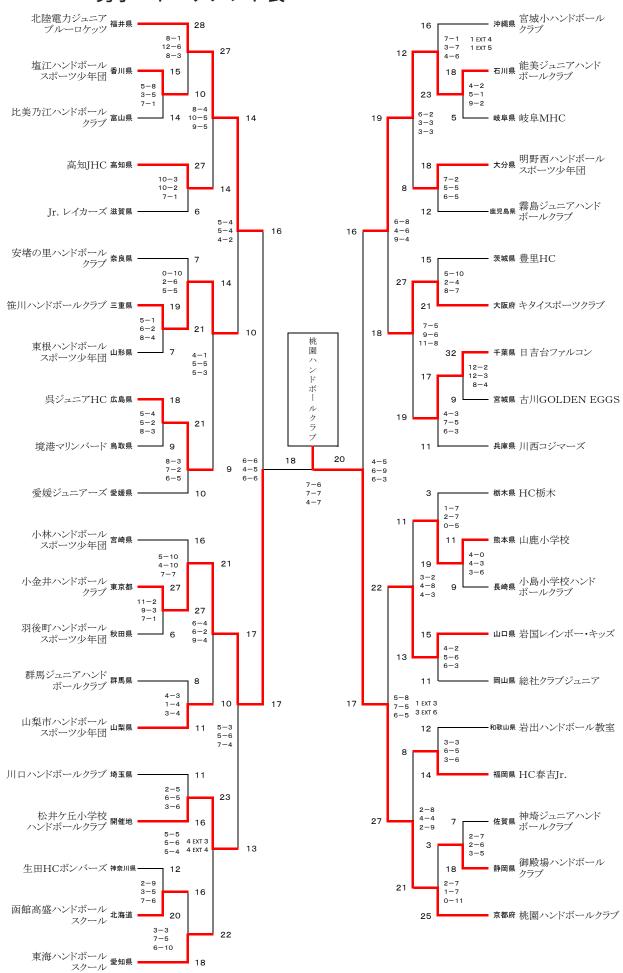
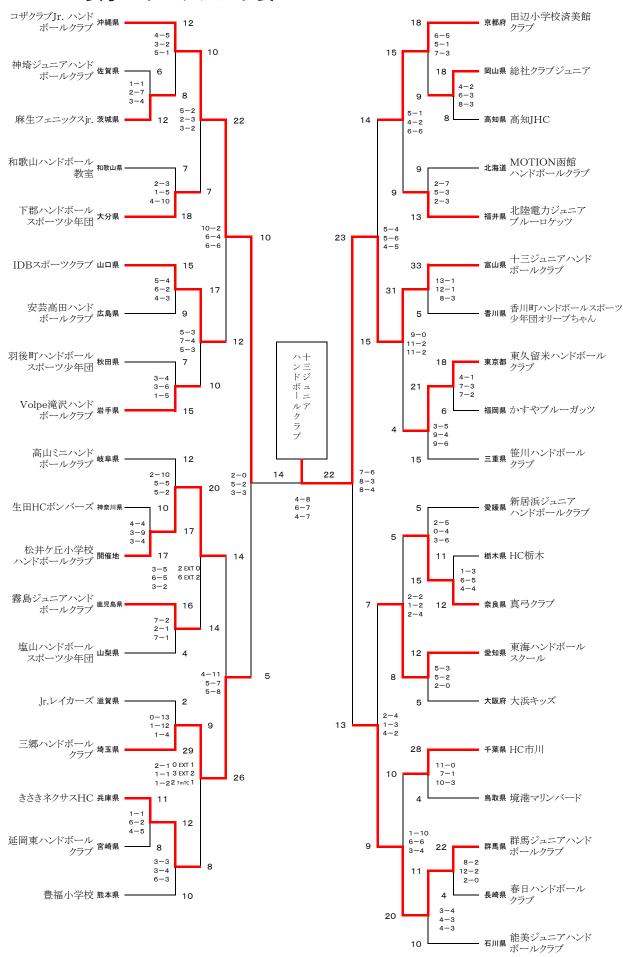
今年のチームの特徴は、どこからでも得点が狙えるところ、そして、「守って速攻」ができるというところです。オフェンスでは、昨年から試合を経験している子供が多く、息の合ったプレーが多く見られるようになってきました。また、「前」を強く意識しながら一人一人が攻撃のスキルを上げるよう練習に取り組みました。ディフェンスでは、高い位置でプレスをかけ、相手のミスを誘ったり、速攻につなげたりするために、3：3ディフェンスを強化してきました。特に基礎的なフットワークの練習に時間を費やし、「足で守る」ことを念頭におき、練習をしました。そんな辛い練習にも子供たちは、「全国制覇するためだったら何でもやる！」と必死に頑張りました。そして、「やることはやった！」「全国大会では、思い切って試合をしよう！」と京都の地へ向かいました。

そして迎えた、全国大会。1回戦、2回戦ともに「守って速攻」で優位に試合を進め、勝つことができました。準々決勝は地元京都の田辺小学校済美館クラブ。気持ちの強いプレーと堅い守りに苦しめられましたが１点差で勝ちきることができました。この接戦をものにしたことでチームに勢いと自信が生まれたように感じます。その勢いのまま準決勝で群馬ジュニアハンドボールクラブに勝ち、決勝戦へ駒を進めました。むかえた沖縄県代表のコザ Jr ハンドボールクラブとの決勝戦。子供たちのプレーに迷いはなく、練習したことを思い切って表現していました。前を意識したオフェンス、足で守るディフェンス。決勝という大舞台にもかかわらず、楽しみながらプレーしている姿も頼もしく感じました。第３セットの終了のブザーがなるまで全力で戦い抜いた子供たち。ついに目標だった全国制覇を達成することができました。“努力は裏切らない”という言葉をよく耳にしますが、まさに子供たちの日々の努力がつかんだ優勝だと思います。本当に、本当におめでとう！！

最後に全国大会出場にあたり、ご支援いただいた富山県ハンドボール協会、氷見市ハンドボール協会、湖南地区、仏生寺地区の皆様には大変感謝しております。また、大会運営に関わった皆様にも感謝とお礼申し上げます。ありがとうございました。

男子：トーナメント表（全国小学生ハンドボール大会ＨＰより）

女子：トーナメント表（全国小学生ハンドボール大会ＨＰより）

第22回ジャパンオープントーナメント
「福井しあわせ元気」国体ハンドボール競技プレ大会

開催期間　2017年８月５日 ～ ８月８日
開 催 地　福井県・福井市、永平寺町
主　　催　（公財）日本ハンドボール協会、全日本社会人ハンドボール連盟、永平寺町、永平寺町教育委員会、「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会永平寺町実行委員会、福井市、福井市教育委員会、「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会福井市実行委員会
主　　管　福井県ハンドボール協会
後　　援　福井県、福井県教育委員会、「福井しあわせ元気」国体・障害者スポーツ大会実行委員会、（公財）福井県体育協会、（一社）福井市体育協会、永平寺町体育協会
会　　場　福井県営体育館、福井市体育館、北陸電力福井体育館フレア

大会を振り返って　福井県ハンドボール協会理事長　庄司 勝三

始めに、酷暑の中、最後まで熱戦を繰り広げられた出場チームの皆様に御礼を申し上げます。至らぬ点が多々あり、皆様にはご不便をお掛けすることも多かったのではないかと思いますが、そんな中にあっても、真摯にゲームに取り組まれ、スポーツマンシップを体現していただきました。栄えある優勝杯を手中にされた、男子；HC 和歌山、女子；香川銀行の皆様のみならず、すべての参加チームの方々のプレーは、国民体育大会を来年に控えた本県の関係者一同に、ハンドボール競技の魅力を再認識する機会を与えてくださったと感じています。本当に有り難う御座いました。

大会終盤の男女ベスト４の試合では、女子の部の香川銀行Ｔ・Ｈ（香川県）が自らの記録を更新し、11 年連続の優勝を遂げました。まさに堅守速攻という言葉が当てはまる試合ぶりで、決勝以外のすべてのハーフを一桁失点で守りきり、それを速攻に繋げるという、日頃培った機動力を存分に発揮された優勝であったと思います。決勝の対戦相手の JJ ギャング（福井県）は、国体開催を来年に控えた成年女子の母体となるチームで、今大会から合流した元全日本選手の石立が司令塔となり、地元応援団の後押しを受けて快進撃を続けましたが、善戦空しく準優勝となりました。課題となる攻撃力に磨きをかけて、来年の福井国体でも旋風を巻き起こしてほしいと願います。３位決定戦では、過去三大会で決勝進出した HC 和歌山（和歌山県）と 18 回大会準優勝のナデシコクラブ（奈良県）が対戦しました。猛暑の中の熱戦は、攻撃力に優る HC 和歌山に軍配が上がりました。

台風５号の接近により開始が危ぶまれた男子決勝は、大会二連覇中の HC 和歌山（和歌山県）と、大会初優勝を狙う一般社団法人フレッサ福岡（福岡県）の対戦となりました。順調に勝ち上がった HC 和歌山に対し、緒戦から際どいゲームをものにしてきたフレッサ福岡との試合は、守備面でどちらも足を動かし連続得点を許さない、ロースコアながらも白熱した展開となりました。しかしながら、退場時間に着実に得点を重ね、要所を押さえた HC 和歌山が、粘るフレッサ福岡を振り切り三連覇を達成しました。３位決定戦では、前回準優勝の HONDA（三重県）対前々回準優勝の FOG（千葉県）の戦いとなりました。前半５点差を１点差まで詰め寄った FOG でしたが、伊藤のロングシュートなどで突き放した HONDA が３位となりました。

大会全般から感じたことを幾つか挙げますと、大会の序盤で強豪同士がぶつかる試合があり、特に男子では僅差のゲームが多くあったことで、大会自体が非常に盛り上がりを見せました。また、勝ち上がったチームの特徴として、堅守を支えた GK のファインセーブが印象的でした。審判の判定も毅然として明確であり、TD・オフィシャルとのコミュニケーションもスムーズであったように感じました。これらのことは、今大会を成功裡に終えられたことの大きな要因であったと有り難く感じております。

最後になりましたが、開催準備および運営面で、公益財団法人日本ハンドボール協会の皆様には一方ならぬお世話になりました。また、福井県ハンドボール協会役員の層の薄さを埋めるべく、近隣県から応援に駆け付けてくださった北信越各県ハンドボール協会の方々。大会を縁の下で支えていただいた福井市・永平寺町の職員の皆様方に深く御礼を申し上げ、さらには、来年度の福井国体でのご支援・ご協力をお願いして、大会の回顧とさせていただきます。

男　子　HC和歌山　優　勝

第22回ジャパンハンドボールトーナメントを終えて

HC和歌山監督　古家 雅之

まず始めに、本大会に御協力、御支援いただきました関係団体、関係各社、大会運営をいただきました皆様に御礼を申し上げます。前年度大会に続き、今年度もこのような全国規模の素晴らしい大会に参加できたことをうれしく思います。

大会を振り返ってみると、一・二回戦は全体的に固さが見られ、なかなか流れを掴めない展開でしたが、HC和歌山の持ち味である堅守からの速攻で着実に得点を重ね、勝利することができました。

三日目の準々決勝、準決勝はこの大会を通して最もハードな日となりました。トヨタ紡織九州レッドインパルスの個人技を活かした多彩なオフェンスや、FOGのセンターラインを中心とした組織的なオフェンスに苦しめられましたが、今大会に向けて準備してきた粘り強いディフェンスが勝負所で機能し、オフェンスにもいいリズムが生まれ、終盤に突き放すことができました。

そして迎えた決勝戦、フレッサ福岡のスピーディーでパワフルなオフェンスに苦戦しましたが、チーム全員が自分たちの持ち味と個々の果たすべき役割に集中し、ディフェンスとオフェンス両方で持てる力を十二分に発揮した結果、辛勝することができました。

大会を通じて、優勝を意識するのではなくその過程に集中してきました。その結果が三連覇だったことは大変うれしく思います。また、地元和歌山県で開催された紀の国わかやま国体から約2年が経過し、主力メンバーが入れ替わる状況もありましたが、地元和歌山県出身の若手選手の加入・活躍という好循環が生まれていることは、国体のレガシーとして今後も継承していきたいと思っています。今後もこの結果に満足せず、和歌山県、また全国のハンドボーラーにより良い影響が与えられるよう、さらに精進していきたいと思います。

最後になりましたが、これまでHC和歌山の活動に御支援、御声援いただいた皆様、HC和歌山に関わってくださった皆様に、深く感謝と御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

女子　香川銀行T・H　優勝

ジャパンオープン 11 連覇達成

香川銀行Ｔ・Ｈ　太田 光咲

11 連覇をかけて臨んだ今年のジャパンオープントーナメントは、“優勝” を勝ち取るために毎日練習に励んできました。ただ勝つというだけではなく、私たちらしい勝ち方で、「DF から速攻」を徹底し、走り勝つことを目標としてきました。

主力メンバーを怪我で欠いた状態で挑んだ今大会、実業団チームとして負けられないプレッシャーも背負っていました。しかし、先輩方から受け継いできた連覇の記録を絶やすわけにはいかないと、日々取り組んできた練習を信じ、今コートに立てるメンバーの全力を試合で表現しようと戦いました。

大会を通して、自分たちのチームカラーである “DF から速攻” で得点を重ね、全員で走って勝つことができたと思います。しかし、国体に向けて強化中である福井県の JJ.GANG との決勝戦では、後半点差を広げて勢いに乗りたいという大事な場面で、ことごとくシュートを阻まれ、今後への課題が浮き彫りになる内容となりました。シュート力だけでなく、相手を見てプレーを選択する力、判断力など課題を挙げればきりがありませんが、次に開催される国体や日本選手権に向けて、一人ひとりが主体的に練習に取り組み、更に個々のレベルアップとチーム力の向上を図っていきます。

また、試合会場まで遠方からたくさんの方々が応援に駆け付けて下さり、いいプレーにはさらに勢いづく声援を、たとえ苦しい展開でも心強い声で鼓舞して頂きました。いつも応援して下さる皆様の支えがあってこその優勝であり、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、香川銀行をはじめ、ハンドボール協会各位、OG の方々や保護者の方々、チームへのご支援、ご声援いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後も、チーム一同、新たな目標に向かって成長していきます。そして、誰からも愛されるチームになれるよう頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。

戦　評

男 子

▼準決勝

フレッサ福岡　23(11−10、12−10)20　HONDA

　厳しい戦いを勝ち抜いてきた両者の準決勝は、筒井の豪快なステップシュートが決まり、フレッサが先制。それに対し、HONDA は、ルーズボールから岡田がサイドシュート、井上がミドルシュートを決めるも、絶好調フレッサ福岡筒井のミドルシュートが立て続けに決まり、一進一退の攻防が続いた。HONDA は素早いパス回しを見せるも、フレッサ福岡は要となる GK 渡邉を軸とした粘り強いディフェンスをし、HONDA の得点を簡単に許さない。得点を奪えず、苦しい HONDA も要所で青木が好セーブを見せ、前半 20 分で 7 対 6 となる。その後、HONDA も伊藤のスピードをつけたカットインで応戦するも、フレッサ福岡筒井、松永の豪快なシュートに対応しきれず、タイムアウトをとる。タイムアウト後、HONDA は竹田がミドルシュートを決めるが、フレッサ福岡も筒井からの巧みなパスで井内がポストシュートを決め、11 対 10 とフレッサ福岡が 1 点リードで前半を折り返した。

　後半、3 分にフレッサ福岡筒井が退場すると、HONDA は高木のサイドシュートなどで 2 連取し、逆転に成功。その後、互いに点を取り合い、14 対 14 の同点で HONDA 竹田が退場するとフレッサ福岡松永がミドルシュート、井内がサイドシュートを決め、2 点差をつける。追いかける展開となった HONDA は、フレッサ福岡の堅い守りに対し、点を決めるも田辺にミドルシュートを決められリードを広げられる。3 点差をつけ、さらに勢いをつけたフレッサ福岡は筒井がミドルシュートを決め、4 点差とすると、流れを変えたい HONDA はタイムアウトを取る。タイムアウト後、HONDA は 3 連取し、1 点差とするも、フレッサ福岡 GK 渡邉の好セーブがひかり、同点に追いつくことができない。最後は、気迫あるディフェンスで流れをものにしたフレッサ福岡が 3 点差をつけ 23 対 20 で勝利し、決勝へ駒を進めた。

HC和歌山　26(14−8、12−9)17　FOG

　大会 3 日目の最終試合となる準決勝は、いずれの試合も順当に勝利している HC 和歌山と準々決勝に OSAKA SOCIO との激戦を制した FOG の対決となった。

　試合は HC 和歌山のスローオフから開始され、HC 和歌山の松波、宮元のシュートで 2 連取する。その後は、両者粘り強い DF で簡単に得点を許さないものの、HC 和歌山本田の速攻や永井のキレのあるステップシュートでじわじわ FOG を引き離していく。FOG も点差を詰めるためシュートを打ち込むが、HC 和歌山 GK 前田の好セーブもあり、得点を奪えない。前半は HC 和歌山が終始主導権を握り、14 対 8 で折り返した。

　点差を詰めていきたい FOG は池田の鋭いミドルシュートで後半をスタートさせる。しかし、HC 和歌山もフットワークを活かした DF と前半から安定感を見せる守護神前田がそれ以上の追撃を許さない。FOG は、大会を通して活躍し続ける HC 和歌山永井にマンツーマンをつけたり、DF システムを変更したりするなど反撃の糸口を探るが、HC 和歌山の巧みなコンビネーションプレイを守ることができなかった。決勝戦には、26 対 17 で HC 和歌山が駒を進めた。

▼3位決定戦

HONDA　20(12−7、8−9)16　FOG

　大会 4 日目最終日、男子 3 位決定戦は、開始 2 分 HONDA 瀬元の 7mT の得点から始まる。HONDA 大杉などの 4 連続得点でリードを広げたところで、FOG は TO を請求。FOG は佐藤を中心に立て直しに図るが、HONDA・GK 青木の攻守などにより、なかなか得点できない。一方、HONDA は速攻を絡めた攻撃で、徐々に点差を広げ前半 12 対 7 で終える。

後半開始後、FOG 池田など 3 連続シュートで巻き返しを図る。足が動き出した DF に HONDA の得点が止まり、15 分過ぎには 1 点差に詰め寄られ、シーソーゲームとなる。要所で HONDA 伊藤のロングシュートが決まり、最後は試合巧者の HONDA が 20 対 16 で FOG を退けた。

▼決勝

HC和歌山　21（11−9、10−9）18　フレッサ福岡

大会 2 連覇中の HC 和歌山と、強豪を打ち破り勢いに乗るフレッサ福岡の対戦。立ち上がりは堅い DF と両チーム GK の好セーブで引き締まった展開となる。4 分、HC 和歌山本田が 7mT で先制。フレッサ福岡も松永がこぼれ球を押し込み同点とする。HC 和歌山宮元、フレッサ福岡筒井が点を取り合い一歩も譲らない。その後フレッサ福岡のミスから HC 和歌山が 3 連取し 15 分、6 対 4 とリードする。フレッサ福岡も松永のカットインで追い上げるが、ミスから逆に 3 連取され点差が拡がる。21 分、9 対 5 と HC 和歌山リードしたところでフレッサ福岡がタイムアウトを請求し、松永が中央からディスタンスを決め追い上げる。ここから両チーム点を取り合い 3、4 点差の間での攻防が続く。フレッサ福岡が筒井、田辺が 2 連取で 2 点差に追い上げるが 27 分、フレッサ福岡神田が退場しピンチを迎える。しかしこの間、フレッサ福岡 GK 國分の連続セーブで離されない。11 対 9 の HC 和歌山リードで前半を終了する。

後半、フレッサ福岡瀬戸がロングを決めると、HC 和歌山も松波の速攻で取り返す。その後 2 点差の攻防が続くが 12 分、HC 和歌山松井がポストから決め 3 点差となる。15 分、フレッサ福岡に 7mT となるが、これを HC 和歌山 GK 前田が好セーブ。19 分、フレッサ福岡栗崎のポストプレーに HC 和歌山宮元が退場すると、瀬戸が確実に決め 2 点差に詰める。21 分、逆にフレッサ福岡筒井が退場すると、HC 和歌山本田がサイドから決め再び 3 点差となる。23 分、フレッサ福岡井内がカットから速攻を決めると、HC 和歌山がタイムアウトから本田がサイドから決め再び 3 点差とする。27 分、フレッサ福岡に 7mT のチャンスを井内が確実に決め 2 点差に追い上げ望みをつなぐ。しかし 28 分 30 秒、フレッサ福岡松永が退場すると 7mT を HC 和歌山本田が確実に決め、試合を決定づける。21 対 18 で HC 和歌山が勝利し、3 連覇を達成した。

女 子

▼準決勝

JJ.GANG　26（16−11、10−11）22　HC和歌山

地元の JJ.GANG のスローオフにて試合開始。開始早々 JJ.GANG 石立、園部、竹山の 3 連続得点によりチームに勢いをつける。HC 和歌山も吉田のサイドシュート、村坂の速攻で 1 点差に詰めより、加陽の速攻で同点に追いつくかと思われたが、JJ.GANG 家城にセーブされる。一進一退の攻防が続く中、HC 和歌山中村が得点を決め逆転に成功し勢いづくも、JJ.GANG 園部の得点を皮切りに 4 連続得点を奪い流れを引き戻し、その後も着実に得点を重ねリードを広げていく。その後、両キーパーの好セーブにより停滞した時間が続く中、JJ.GANG 石立が退場し、HC 和歌山の中村、村坂の 2 連続得点により点差が縮まるも、前半終了間際に JJ.GANG 園部、石立が得点を決め、16 対 11 で前半を終える。

後半開始から、HC 和歌山が積極的にシュートを放つも JJ.GANG 家城の好セーブに阻まれ、中々ゴールネットを揺らせない。一方の JJ.GANG はセットプレーで着実に得点を重ね、最大 8 点差までリードを広げる。しかし、HC 和歌山も村坂のサイドシュートを皮切りに、猛追を開始。JJ.GANG 川崎の退場も重なり、点差が縮まるも、JJ.GANG 家城のスーパーセーブに阻まれ、完全に流れを引き寄せられない。その後、お互いに得点を重ね、僅差のまま試合は続く。このまま終わるかと思われた試合も、JJ.GANG のミスも絡み、逆速攻を中心に 2 点差まで追い上げる HC 和歌山。続く HC 和歌山の 7mT のチャンスも、代わって入った毛利のビッグセーブで流れに乗った JJ.GANG が逃げ切り、苦しいゲームを勝ち切り、地元の大声援を受けた JJ.GANG が初の決勝進出を決めた。

香川銀行T･H　52(24－8､28－5)13　ナデシコクラブ

準決勝の対戦は、前回大会優勝した香川銀行（香川県）にナデシコクラブ（奈良県）が挑む形となる。前半、香川銀行からのスローオフから始まる。先制はナデシコクラブ平子のセンターからのロングシュートが決まる。序盤は両者一歩も譲らない 1 点差の攻防を見せるが、香川銀行の守りの堅さが表れ、香川銀行和田、太田の速攻を中心に得点を重ね､徐々に点差が開き 15 分で 12 対 6 の展開となる。ナデシコクラブは 17 分に辻の退場もあり、香川銀行は速攻を中心に 11 連続得点で更に点差を引き離す。ナデシコクラブはポストプレーからファウルを誘い攻撃のリズムを立てし、辻が 2 連続の 7mT を得点するが、24 対 8 で前半を終了する。

後半開始、香川銀行 GK 森村を中心とする堅い DF により、香川銀行が 4 連続得点をする。ナデシコクラブは神宮が攻撃の起点となり、ナデシコクラブ浜田、築山のディスタンスシュートで奮闘するが、香川銀行の速攻の足が衰えず、山下、荒木が速攻を中心に加点していく展開となる。中盤・終盤にかけ香川銀行の堅守・速攻が目立ち 52 対 13 の大差で勝利した。

▼3位決定戦

HC和歌山　29(14－10､15－13)23　ナデシコクラブ

ナデシコクラブのスローオフで試合開始。立ち上がりは互いに様子を見ながらの静かな展開。先制点はナデシコクラブ秋田のポスト。HC 和歌山もすぐさま吉田がポストを決め 1 対 1 の同点に。5 分、HC 和歌山は村坂のカットインから 4 連取でリードするが､ナデシコクラブも HC 和歌山のミスを活かし 3 連取で 1 点差まで追い上げる。しかし､14 分にナデシコクラブ秋田が退場すると HC 和歌山が一気に 3 連取。9 対 5 で HC 和歌山がリードする。流れが HC 和歌山に傾きかけたところ、ナデシコクラブ上山がノーマークシュートを好セーブし、チームを盛り立てる。一進一退の攻防の後、ナデシコクラブに 7mT のチャンス。これを辻が確実に決め追い上げる。その後お互いにミスが続きなかなか得点できない。終盤、ナデシコクラブが追い上げ、14 対 10 と HC 和歌山が 4 点リードで前半を折り返す。

後半は HC 和歌山がディフェンスからリズムを作り、村坂のカットイン、舟橋の速攻で点差を拡げる。対するナデシコクラブも姫田が 2 連取で追いすがる。5 分、ナデシコクラブ築山が退場すると HC 和歌山吉田が 7mT を確実に決める。一気に点差を拡げたい HC 和歌山だが、ナデシコクラブ GK 上山がノーマークシュートを好セーブしこれを許さない。その後お互いに点を取り合い 10 分、20 対 15 で HC 和歌山リードの展開。その後も一進一退の攻防が続き、4、5 点差の間で推移した。17 分、ナデシコクラブ射手矢が退場するが、このピンチにナデシコクラブ GK 上山が好セーブを連発し点差を拡げさせない。一進一退の攻防が続くが 24 分、HC 和歌山長尾がロングを決め 6 点差に広げる。HC 和歌山はディフェンスで踏ん張り、4 連取で試合を優位に進める。終盤、ナデシコクラブも速攻などで追い上げるが、終始安定したディフェンスを見せた HC 和歌山が 29 対 23 で勝利した。

▼決勝

香川銀行T･H　22(16－12､6－6)18　JJ.GANG

決勝はこの大会を 10 連覇している香川銀行と、決勝には初出場となる地元福井の JJ.GANG の対戦となった。香川銀行のスローオフで試合開始。開始早々射矢が得点するも、すぐに石立が得点し一進一退の攻防となった。GK 家城の好セーブから速攻で点を重ね 5 対 3 と JJ.GANG がリードする。しかし、香川銀行は持ち味の速攻で山下の連続得点と國方の得点により逆転する。その後は要所で JJ.GANG 石立が得点し食らい付くものの、香川銀行の堅いディフェンスから山下、石川、國方、荒木の速攻で得点を重ね、16 対 12 と香川銀行がリードし前半を折り返した。

後半は JJ.GANG が園部の 7mT により先制するも、香川銀行は森村の好セーブから石川、山下、荒木による 4 連続得点で突き放す。その後は JJ.GANG 毛利と香川銀行森村の再三にわたる好セーブによりお互いに得点を重ねることができず、最終的に香川銀行が 22 対 18 で勝利し、大会 11 連覇を達成した。

[3号球] 品番 **H3X5001-BW ¥8,400(本体価格)+消費税**
[2号球] 品番 **H2X5001-BW ¥8,200(本体価格)+消費税**
国際公認球 検定球 人工皮革 縫い ブルー×ホワイト ラテックスチューブ

www.molten.co.jp

asics
DASH
MORE FAST
ダッシュ性能を追求したスピードモデル。
GEL-FASTBALL 2
NEW
THH545
本体価格 ¥11,800＋税
サイズ 23.0～29.0・30.0cm
0190
ホワイト×ブラック
4501
アシックスブルー×ホワイト
アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
本体価格は消費税抜きのメーカー希望小売価格です。 ■商品についてのお問い合わせ先：アシックスジャパン株式会社お客様相談室 0120-068-806 ■当社ホームページ asics.com からもお問い合わせをしていただけます。

第９回日韓小学生親善交流会

開催期間	2017年８月13日～８月16日
開催地	長崎県佐世保市
主催	公益財団法人日本ハンドボール協会 韓国ハンドボール連盟
主管	九州ハンドボール協会 長崎県ハンドボール協会 佐世保ハンドボール協会
後援	長崎県教育委員会 佐世保市教育委員会 公益財団法人長崎県体育協会 公益財団法人佐世保市体育協会
協賛	株式会社モルテン
会場	長崎県佐世保市東部スポーツ広場体育館

試合結果

８月15日（火）

【女子】
韓国代表　13（８－２、５－３）５　佐賀県選抜
韓国代表　16（９－１、７－１）２　長崎県選抜
【男子】
韓国代表　14（６－４、８－５）９　佐賀県選抜
韓国代表　28（12－６、16－４）10　長崎県選抜

８月16日（水）

【女子】
韓国代表　6（4－3、2－1）4　福岡県選抜
韓国代表　17（9－0、8－3）3　長崎県選抜
【男子】
韓国代表　19（10－3、9－6）9　福岡県選抜
韓国代表　25（16－11、9－4）15　長崎県選抜

事業報告

九州ハンドボール協会理事長　児玉 浩三郎

【８月13日（日）】
福岡国際空港で韓国選手団を出迎えた。出発直前に男子２名・女子１名：計３名の選手が感染症のため渡航できなくなり、選手は男子18名・女子19名：計37名、スタッフ８名の総計45名の受け入れとなった。
福岡国際空港から佐世保市までの移動は、お盆の移動ピーク期と重なり、通常より多くの時間を要したが、バスの車内では、子どもたちが日本語の発声練習をしたり、韓国内での流行歌を歌ったりして、終始和やかな雰囲気だった。ホテル到着後は、長崎県ハンドボール協会主催の歓迎レセプションが行われた。

【８月14日（月）】
今回の事業は、到着後の翌日に観光日を設定した。西海パールシーリゾート内の水族館を見学したり、遊覧船に乗船したりして風光明媚な九十九島を満喫した。弓張岳でのランチ後は、西海橋に行き、高架橋から渦潮を見学した。翌日からの合同練習・交流試合を控えた選手やスタッフにとっては、いいリフレッシュになっていた。

【８月15日（火）～16日（水）】
午前中は、韓国の指導スタッフによる合同練習を行った。昨日までのリラックスした雰囲気とは一変し、体育館に入りコートに立つと、目の色が変わり練習に臨もうとする姿勢は、日本の選手たちも見習うべき点だった。トレーニングの内容は、フットワークが中心だった。日本の選手たちは恐らく、こんなに長時

間かけてフットワークをしたことは初めての経験だっただろう。日本の選手たちは、韓国の選手たちの動きを参考に必死に取り組んでいた。こんなに時間をかけて、攻撃にも守備にも通じる基礎的な「足さばき」を習得させることがジュニア期に重要なことであることを日本の指導スタッフも再認識していた。

午後からは、15分ハーフのゲームを行った。今回は、開催県である長崎県のチームだけでなく、隣県の佐賀県と福岡県の子どもたちにも貴重な体験機会が与えられ、それぞれの県代表（選抜）チームが合同練習と試合経験を積むことができた。試合内容は、韓国の選手たちが５年生とは思えないほど、基礎的フットワークに裏付けされた攻撃時や守備時においてレベルの高いパフォーマンスを発揮していた。午前のフットワーク練習が、午後のゲームパフォーマンスにつながっていることを日本の選手たちはゲームを通して感じており、今後は各所属チームに戻って練習が再開される時の意識高揚につながったと思う。

２日間の交流競技会が終わった後は、佐世保ハンドボール協会主催のフェアウェルパーティーが開催された。会食後は、韓国選手のダンスあり、長崎県選手の歌ありで大いに盛り上がり、最後には、韓国選手団と長崎県選手団とが一緒に韓国民謡「アリラン」を大合唱して「親善」の名にふさわしい会の締めくくりとなった。

日韓小学生ハンドボール親善交流会を終えて

長崎県選手団総監督　土岐 克敏

今回、この交流会を開催するにあたり、様々な不安がありました。それは、「近年、本県小学生チームが、全国大会で大きな結果を残すことができていない現状があり、本県小学生チームが韓国の小学生と試合になるのだろうか」というものでした。しかし、この不安を大きく拭い去ってくれたのは、本県の小学生スタッフの熱意でした。「長崎県の子どもたちに貴重な経験をさせましょう。」という前向きな一言が本事業を実りあるものしてくれました。

交流会が始まってからというものは、日本の子どもも韓国の子どももハンドボールを楽しんでいました。ハンドボール以外でも食事やアニメなどを話題にし、盛り上がっていました。言葉や文化の違いはあるけれども、同じハンドボールプレイヤーとして数日間交流することができ、プレイヤーのみならず小学６年

生としても大きく成長できたのではないかと思います。今回、このような機会を与えていただき、感謝の一言しかありません。

今後、長崎県の競技力向上のためにも韓国の指導者から教えていただいたことを実践し、身につけさせたいと思います。近い将来、長崎県の子どもたちが、オリンピックで活躍するよう選手を育てていきたいと考えています。カムサハムニダ（ありがとうございました）

長崎県男子選抜チーム　平野　諭

今回の日韓親善交流会は、僕たちにとって、とても有意義な経験となり、多くのことを学ぶよい機会となりました。

一日目の合同練習会では、慣れない練習にきつさを感じました。しかし、それ以上に学ぶことが多く、きつさも忘れて一生懸命練習に取り組みました。最初は、韓国選手の体格の大きさや掛け声に圧倒され緊張していた僕たちでしたが、合同練習会を通して次第に声も出るようになりました。

午後からの試合では、韓国選手の技術の高さだけでなく、チームワークの良さにも驚かされました。特に、走る速さやジャンプ力・シュート力には圧倒され、とても同級生のプレーとは思えないほどでした。僕たち長崎県選抜チームは二日間とも負けはしましたが、結果として多くのことを学ぶことができました。

最終日のお別れパーティーでは、すっかり仲良くなり、「ハンドボールには国境がない」ということを改めて実感しました。韓国選手に大いに刺激を受けた二日間となりました。これからは、韓国のような強いチームを目指して練習に励みたいと思います。

長崎県女子選抜チーム　長島 千乃

小学校生活最後のこの夏、私たち長崎県チームは、とても心に残る体験をしました。

私たちは、お盆の時期に韓国代表と長崎県・佐賀県・福岡県の代表が集まり、合同練習や交流試合をしました。韓国代表と交流や対戦をして、私たちは、体格の小ささはもちろんのこと、技能の未熟さや心の小ささも感じました。特に、パスのスピードと精度は私たちとは全く違っていました。

韓国の凄さは技術だけではありませんでした。それは、子どもたち一人一人が堂々と且つ親しみやすい雰囲気をもっていたことです。言葉は通じなくても、すぐに仲良く打ち解けることができました。交流会最終日に行われた「フェアウェルパーティー」ではたくさんの人と写真を撮ったり、握手をしたりしました。

この夏の体験は、私たちに足りないものを気づかせてくれた素晴らしいものとなりました。ハンドボールは一人ではなく、仲間と協力してプレーすることが大切なスポーツです。チームとしての力を高めるためにも強い心をもちたいと思いました。そして、韓国の友だちを忘れず、また一緒にハンドボールができることを楽しみしています。

第25回全日本マスターズ大会

順位決定型

開催期間　2017年8月11日～8月13日
開 催 地　東京都・八王子市
主　　催　公益財団法人日本ハンドボール協会
主　　管　公益財団法人日本ハンドボール協会マスターズ専門委員会、東京都ハンドボール協会、
　　　　　第25回マスターズ順位決定型八王子大会実行委員会
協　　力　東京都社会人ハンドボール連盟
協　　賛　株式会社モルテン、霧島酒造株式会社、株式会社スポーツイベント、新日本印刷株式会社
会　　場　エスフォルタアリーナ八王子

交流型・11人制

開催期間　2017年8月11日～8月13日
開 催 地　愛知県・豊田市
主　　催　公益財団法人日本ハンドボール協会
主　　管　公益財団法人日本ハンドボール協会マスターズ専門委員会、愛知県ハンドボール協会、豊田市ハンドボール協会
後　　援　豊田市、愛知県教育委員会、公益財団法人愛知県体育協会、豊田市教育委員会、公益財団法人豊田市体育協会、
　　　　　中日新聞社
協　　賛　株式会社モルテン、霧島酒造株式会社、株式会社スポーツイベント、公益社団法人愛知県柔道整復師会、
　　　　　名鉄観光サービス株式会社、新日本印刷株式会社、GHBP
会　　場　豊田市総合体育館（スカイホール）、豊田市運動公園体育館、豊田市高岡公園体育館、豊田市西部体育館、
　　　　　豊田市運動公園球技場

平成29年度第25回全日本マスターズハンドボール
豊田大会・八王子大会を終えて

昨年の豊橋大会は７人制の部（交流型・順位決定型）の参加チームが 88 チーム、更に 11 人制の部とシニアの部を合わせると約 100 チーム規模の大会になりました。

これは４つの競技を１都市で同時期に集中して行う限界を遥かに超えている数字です。

平成 29 年度から４つの競技を３か所で分離・独立して行うことを決め、交流型と 11 人制を豊田市で、順位決定型を東京都八王子市で同時期に開催しました。又、シニアの部は豊田市小原地区（旧小原村）11 月 17 日（金）から 19 日（日）に開催する予定です。

１、順位決定型について

マスターズ専門委員会全国委員　安藤　毅

順位決定型の部は八王子狭間駅前に３年前完成しましたエスフォルタアリーナ八王子で８月 11 日から３日観開催されました。女子５チームはリーグ戦方式、男子 16 チームはトーナメント・理事長杯トーナメント（敗者戦）で実施しました。会場は冷房が効き、各チームの試合数は多かったのですが、皆さまに楽しんでいただけたと思います

又、実施に当たってはマスターズハンドボールの「すべては参加者の手作りで」の基本理念に則り、ゲーム運営を参加者が行いました。只、13 日の最終日は東京都協会のご協力で全試合の審判をして頂き、選手からも好評でした。

結果は、女子優勝は NEW フェイスと MLN 沖縄 が同率・同得失点ということで２チームが、男子は大阪同士の決勝となり“IMPAL with T ”が“大阪 330HC”を破り優勝しました。

最後になりましたが、会場準備から運営・後片付けを東京高専ハンドボール部の皆さん、都立石神井高校ハンドボール部の皆さんには何から何までお世話になり、素晴らしい大会が実施できたことをご報告いたします。

２、交流型について

マスターズ専門委員会中央委員　小山 哲央

お盆の時期と重なり、なかなか参加申し込みをするチームが現れず、大会開催を心配しましたが、締切日の直前に男子 45 チーム・女子 15 チームの申し込みがあり、一先ず胸を撫で下ろしました。しかし大会直前まで５チームが人数不足でキャンセルの申し出がありました。交流型の大会ですから他のチームから選手の貸し借りをしてハンドボールを楽しみましょうと何とか説き伏せました。

今回はお盆の時期にしか体育館を借りることができず、チームの責任者には多大なご迷惑をおかけいたしました。このようなことを繰返さないことを肝に銘じてお詫びをさせていただきます。

大会前に混乱した分、大会は傷害などの発生も少なく、順調に進みました。８月 11 日は豊田市運動公園球技場（天然芝）に於いて 11 人制大会を開催いたしました。当日は土砂降りの中 HC 名古屋 ATF − A と MMCM 連合対 HC 名古屋 ATF − B・中部ドリームズとフェニーチェ連合の愛知県同士の決勝となり、１対１の引分けで、２チームの優勝となりました。

８月 12 日・13 日の二日間はスカイホール豊田（４面）と運動公園体育館（２面）の計６面を

使って男女合わせてハンドボールを楽しみました。特に運動公園体育館は冷房設備が無く30℃を超す気温と高湿度に選手は苦しみましたが、大型扇風機を16台配置し、大量に提供されたドリンクを氷で冷やし、皆さんに制限なしで飲んで頂き、少しでも暑さを忘れるようにボランティアの皆さんに頑張ってもらいました。

最後になりましたがスカイホール豊田のコート4面を作っていただきました岡崎城西高校女子ハンドボールの皆さんと監督の木全常雄先生、そしてボランティアとしてHC名古屋シニアの皆さん、更に今回ほど傷害発生が少ない大会は初めてであり、それに貢献してくださいました愛知県柔道整復師会の皆さんのおかげをもちまして無事大会を終えることが出来ました。有難うございました。

3、第14回全日本マスターズハンドボール11人制大会の優勝チームを代表して

MMCM　丹野 久美子

3回目の参加となった今大会はHC名古屋ATF－AとMMCM連合で出場しました。

6チーム参加のトーナメント制の第3試合でしたので、第1第2試合を観戦している中で得点に結びつくシュートのヒントを見つけだしました。それは45度のフリースロライン（半径19m）付近からDFと距離をとり、流しの上を狙ってステップシュートを思いっきり打つことである。最初の試合で上記のステップシュートを打ちましたところ、3得点をとり、勝利に貢献することが出来ました。

決勝はHC名古屋ATF－B・中部ドリームズとフェニーチェ連合との身内同士の対戦となりました。ゲームは土砂降りの中行われ、両チームが1点づつとったところで引き分けとなり2チームの優勝となりました。実は決勝の1点も私が取ったこともあり、決勝が終わると皆さんから「ナイスシュート！！」「イヤーすごかったなア」など声をかけていただきました。

これまでのハンドボール人生でこんなに周りの人に活躍を認められたことがあったかな！と振り返り、ちょっと幸せになりました。有難うございました。

4、表彰について

（1）80歳参加記念

大野 金一 様（LBCアルバトロス）
本田 勝亮 様（葵クラブ）

（2）通算20回出場記念

神楽坂フェニックス

（3）通算10回出場記念

チームNEXT　AZZURRO　静岡マスターズ
神楽坂シニア　HC名古屋ATF・B

（4）第25回記念大会特別表彰

若松 義則 様

第1回大会から選手として又、裏方としてこの大会を支えて下さいました。特に第2回大会から現在も継続しておりますが「親と子のふれあいタイム（現子どもふれあいハンドボール）」を担当して下さり、多くの子供たちにハンドボールの基礎となるボール運動を指導して下さいました。マスターズ大会の発展と子供たちの発育発達に貢献して下さいました。

順位決定型　IMPAL with T　男子優勝

IMPAL with T　大野 順也（選手兼事務担当）

はじめに、第25回全日本マスターズハンドボール八王子大会開催にあたり、大会運営にご尽力頂いた日本ハンドボール協会及び、東京都ハンドボール協会・各チームの関係各位の皆様方に心より感謝申し上げます。

IMPAL with T（桃山学院高等学校OB主体）とは、OBが立ち上げたハンドボールブランドを応援すると共に、恩師である高橋先生のイニシャルをつけたのが由来です。発起人である中村誠司主将のもとに集まったチームで、現役時代に全国優勝出来なかったメンバーもいる中で昔の夢を実現させるべく、高橋先生がジュニアや学生選抜で指導したメンバーも含め全国から集まり、昨年より出場させて頂いております。（チーム母体は、社会人チームのボンチフェローズOBで結成されており、ホームページ（http://bonchi-hcosaka.com/）も運営し、ハンドボールやビーチハンドボールの普及活動も行っております。）

今大会は、元実業団選手（大同特殊鋼　市原選手、トヨタ車体　野村選手･清水選手、本田技研工業　池辺選手）4名と、社会人チームで活躍されている酒井選手･滝川選手を軸に、芝本選手･深江選手、池田（真）選手、藤田選手･市村選手、合浦選手、文平選手・中野（陽）選手・GK元村選手・野田選手、草川選手、小澤選手、大野選手、これらのメンバー中村誠司監督代行兼選手が采配し、2年連続優勝することができました。

今年のメンバーの中にも、現役時代に体験できなかった全国大会優勝を味わう機会を頂けたことに、このマスターズ大会が改めて貴重な機会を頂ける素晴らしい大会と感じ、感謝申し上げます。

今後につきましても、3連覇目指して、また生涯スポーツとして継続的にマスターズ大会に参加できるよう、引き続き各選手・役員のご家族ご友人、また練習場所を提供して頂いている桃山学院高等学校の木村雅俊先生のご協力頂き、活動していきたいと思います。

最後に、対戦した全てのチーム、ジャッジ頂いた審判の方々、また今大会の為にご尽力頂きました関係者の皆様には、改めまして感謝申し上げます。

順位決定型 NEW フェイス 女子優勝

NEW フェイス 監督 中田 親広

2001 年第 9 回大会から参加し 17 年連続出場にて、念願の優勝を飾りました。振り返ると道のりは長く、そして身体の継続も決して容易ではなかったと思います。しかし、ハンドボールをこよなく愛し練習を継続してきたことが今大会の頂点に立った結果だと考えます。ハンドボールを生涯スポーツとして今後も「継続は力なり」をモットーにより、心技体に磨きをかけ頑張ってプレーを続けて頂きたい。

NEW フェイス キャプテン 松尾 輝子

2000 年からスズッキーズというチームから始まり、現在の NEW フェイスに繋げてきました。毎年いろんな人がハンドボールをやりたいと参加してくれた事が思いを繋ぎ 17 年続けて来れたのだと思います。大好きなハンドボールを大好きな仲間と出来ることに感謝し「楽しくやって勝つ！」絆を繋げてきてくれた仲間がいたからこそ勝ち取った勝利でした。2001 年から参加している男子オールドフェイスがベンチサポートをして下さった事も大きな力になりました。チーム立ち上げから支えて下さったオリジナルメンバーにも嬉しい報告ができました。これからもこのまま絆を繋げていけたら最高です。ありがとうございました。

第８回全国中学生クラブチームカップ

最終順位

男　子

優　勝　広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ
準優勝　大阪 RSC
３　位　ヴァルト岐阜

女　子

優　勝　大阪ジュニアクラブ
準優勝　霧島クラブ
３　位　貝塚バーディーズ

表彰選手

男　子

■大会ＭＶＰ
山下倖輝（広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ）
■大会ベストセブン
荒瀬　廉（広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ）
風呂内海渡（広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ）
甲斐竜馬（大阪 RSC）
北地翔哉（大阪 RSC）
辻　要（ヴァルト岐阜）
久木崎匠（霧島クラブ）
前田一鷹（諫早 HC）
■インパル賞
土方聖悟（高知 JHC）
■ドロン賞
前田一鷹（諫早 HC）

女　子

■大会ＭＶＰ
松山那優（大阪ジュニアクラブ）
■大会ベストセブン
田井麗美（大阪ジュニアクラブ）
廣本　彩（大阪ジュニアクラブ）
小林実杜（大阪ジュニアクラブ）
川島空来（霧島クラブ）
篠原優和（霧島クラブ）
庄司小夏（貝塚バーディーズ）
外口若奈（とびうめジュニア）
■インパル賞
先崎　瞳（豊里 HC）
■ドロン賞
山中麻友香（メーヴェン釧路）

第８回全国中学生クラブチームカップを振り返って

大会副総務委員長　酒巻 博美

『クラブの最高の仲間たちと地域の大会でプレーしたことを思い出し、ありがたい気持ちになります。本当に楽しかった！スポーツできること、それを友達とできること、というのは、特別なことで、恵まれていることです。だから、思いっきり楽しんでください。』パンフレットに寄せられたダグル・シグルドソン日本男子代表監督からのメッセージの一部です。さらに、ウルリック･キルケリー女子代表監督からは、『この大会に参加するすべてのチームとスタッフの皆さんの幸運を祈ります』とも。メッセージに感動し勇気づけられながら、運営委員一同準備に奔走したものです。

　中学生クラブチームは、所属中学校にハンド部がない、支持する指導者の下で学びたい等々、ハンドが大好きな中学生の受け皿として、次のステージで自立した選手として活躍してくれることを望みながら運営をしています。クラブ員や練習場所の確保、参加可能な大会の模索や運営資金繰りと苦労は絶えません。が、ヨーロッパやアジアのクラブと行き来したりなど、それぞれが特色のある活発な展開を繰り広げているのも魅力の一つです。

　また、普及と育成が大前提のもと更に強化を念頭に入れたトレーニングの成果もついてきており、今年は男子５チーム・女子２チームが春の全中へ出場し、男子の広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブが準優勝という成績を残すまでになりました。

　第１回クラブチームカップは、平成 22 年 11 月に関西大学キャンパス他で幕を開けました。春の全中に続く目標としてクラブチームの全国大会を選手に与えたい！と強く願う有志により発足しました。第２回以降は８月に移り開催地は大浜体育館他で、大阪ハンドボール協会、堺市・大阪市ハンドボール連盟の皆様のご支援のもと今日まで続いています。

　第１回の登録は男子８・女子４チーム（135 人)、第８回は男子 17・女子 14 チーム（345 人）となり、わずか７年で男女合わせチーム数・登録人数が 2.5 倍となりました。今年から（公財）日本ハンドボール協会主催となりました。新たな一歩ですが､これまで多くの方々の温かい支えがあったからこそ､また､全てのクラブチーム出身選手･仲間が厳しい環境の中築き上げてくれたからこその今なので､【第８回大会】と銘打ちました。やはり協会主催となるとあらゆる事が違いました。何より選手・指導者や保護者の意識、また各地域の関心度・支援体制が明らかにプラスに変わってきたのは、ここ数カ月現場の人々が一番肌で感じてきたと確信しています。逆にこれまでどおり【競技型】と人数不足でも条件付きで小学生も参加可能な【普及型】を設けたり、日本リーグや海外経験選手（今年は石立真悠子選手）に交流に来て頂いたり、子供が楽しめるファンゾーンを設けたりと、クラブチームならではの企画も大切にしました。また昨年は中体連所属の尾石智洋育成委員長が、今年は専門委員会から大須賀成治東海ブロック長が応援・視察にご訪問下さり､向く方向は同じだと思いを熱くした出来事でした。準備期間･大会中の数々の不手際や不足は、運営委員や各チーム関係者が次回への課題として全て発奮材料といたします。

　全般にわたり導き激励下さった三輪一義指導普及本部長はじめ、藤井俊朗審判長、小山勉副審判長以下審判団の皆さま、大阪の自治体の方々、大阪ジュニアクラブやヴァルト岐阜保護者の皆さまのご尽力無くしては、この大会を成立させることは出来ませんでした。この場をお借りして皆々様に深く御礼申し上げますとともに、今後もクラブチームを温かく厳しく見守って下さいますようお願い致します。

　来年の夏も大阪に集う仲間が思いっきり楽しみ、恵まれていると感謝できますように…。

　大会準備期間から開催中、更に反省事項に至るまで全てにおいて絶大なご尽力を下さった、大会総務委員長の三輪一義氏（協会指導普及本部長）が閉会式で選手に向けてこう述べられました。【見ている人は、見ている】

男子優勝

広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ

メイプルジュニア監督　河原 隆雅

この度第８回全国中学生ハンドボールカップにおいて、広島メイプルレッズジュニアスポーツクラブ中学生男子チームは、おかげさまで初優勝を成し遂げることができました。この素晴らしい大会開催の為にご尽力いただいた大会関係者の方々に心から感謝申し上げます。

そして、日頃からチームを支えて下さった皆様、保護者、卒業生、卒業生保護者の皆様に心から感謝いたします。

当チームは広島メイプルレッズのジュニアチームとして、小学生チームからスタートし、中学生男子チームは、この大会ができた７年前の発足となります。第１回大会から出場させていただいたうち、準優勝は３度あったものの、なかなか優勝への道は厳しく、決勝で悔しい思いをしてきた卒業生はたくさんいました。

小学生チームでハンドボールに出会っても、中学校の部活動でハンドボール競技が無い子供たちは、中学生の間ハンドボールを続ける場所がない状態から、クラブチームでの活動によりハンドボールを続けることができるようになりました。

大きな大会と言えば、３月に行なわれる春の全国中学生大会ですが、１・２年生のみの参加です。１年生から３年生までチーム全員で出場することができるこのクラブチームカップは、クラブチームで活動している選手たちの大きな希望となる大会となりました。

昨年度の試合、今年度の試合、どのゲームを振り返っても、毎回３年生の活躍には目を見張るほどの成長を見せてくれました。チームとして中学生最後の大会という感慨深い思いを胸に、チーム一丸となって試合に挑み、力いっぱい練習の成果を発揮してくれました。その姿は２年生、１年生にも深く焼きついたことでしょう。

この大会に参加させていただく度に、いつもプレイヤーズファーストで心温まる大会だと感動させて頂いています。開会式前や閉会式前のチームの垣根を越えた選手同士の交流は心温まる風景となり、クラブチームカップならではの名物となりました。どの選手もこの大会に参加して楽しかった！と言ってくれます。

このクラブチームカップが日本協会主催大会となったのも、第１回大会からこの大会を支え運営をされてこられた、実行委員会の皆様方、ボランティアの皆様の多大なご尽力あってのことと思われます。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも選手たちにとって夢や希望を与えてくれるこの大会に参加できるよう、練習に励みます。今後ともご指導、ご声援をお願い致します。

男子
優勝

メイプルジュニア主将　山下 倖輝

クラブチームカップで、優勝することができました。これまで関わって来て下さった方々に感謝しています。

僕が１年生の時、自分を含め６人しかいませんでした。そのうち２人はキーパーで、自分はとてもへたくそで、とても全国大会に出れるようなチームではなかったのですが、河原監督をはじめ沢山の人にハンドボールを教えてもらい、とても勉強をさせて頂きました。

練習は、何をやっても楽しく、とてもためになる事ばかりでした。

練習では、最初全く何をしていいのかわからなかったです。でも監督やコーチなどのアドバスや実際にプレーを見せてもらい、わからない自分に教えて下さったおかげで段々とプレーに自信がつくようになりました。どうすればいいのかわからない自分に監督は適切な指示を出してくれました。２年生の時、３人の仲間が増えました。ますます練習に力が入って週２回の練習日が楽しくて待ち遠しかったです。

まだまだわからない事が沢山あるので、今まで教えて頂いたことを生かして次の目標に向けてレベルを上げて行きたいです。

クラブチームカップの閉会式の時に、日本ハンドボール協会指導普及部長の三輪一義さんが「見ている人は見ている」「良い意味で見てくれている、違う意味でも見られている」という言葉を聞いて、言われる前に行動すると、人は必ずどこかで見ていると思うから面倒くさいと思うことも率先して行なえば、プレーにも出てくると思うから自分から行動していきたいです。

最後にこれまで自分たちに関わって頂いた監督、先生、コーチ、保護者の方々、大会関係者の方々にこれまでハンドボールが楽しくできたことを感謝して、これからも自分たちに関わってくださる方々への気持ちを持ってハンドボールを続けて行きたいです。

女子優勝

大阪ジュニアクラブ

大阪ジュニアクラブ監督　渡井 弘枝

この度、記念すべき（公財）日本ハンドボール協会主催になり、初めての大会において優勝する事ができ、大変嬉しく思います。

今年のチームは、サイズのない選手、試合経験の少ない選手が多いので、一からのチーム作りでした。まず、今年の目標を決め、それに向けてどう積み上げていくか。少し大人しい子が多かったので、自分を出す事からトレーニングしました。ハンドボール以外の事が大変だったように思います。

この子達の特徴を活かすには高いディフェンスで守り、走るという事を大切にしたかったので意識、インターバルトレーニングや自体重を使ったトレーニングはとても苦しい時もあったと思います。しかし、皆で乗り切りました。

ひとつの目標であった春中大阪予選の延長で敗れた時から、気持ちを切り替えこの大会で優勝する

女子優勝

事を目標にしてきたので、選手・保護者もこの優勝はとても嬉しかったと思いますし、私達スタッフも選手ひとりひとりの頑張りが優勝という形で結果が残せたのは、嬉しく思っています。

しかし、いまの時期はハンドボールにおいての通過点だと思っているので、益々ハンドボールを好きになり、次のステップで頑張れるように卒団するまで、これからも取り組んで行きたいと思います。

最後になりましたが、今大会運営で共に力を合わせたクラブチームの仲間、ご尽力頂いた皆様、日頃よりご支援ご協力、応援をしてくださった皆様に心よりお礼申し上げます。

大阪ジュニアクラブ主将　松山 那優

はじめに、第８回全国中学生ハンドボールクラブチームカップの開催にあたり多大なるご支援、ご協力を頂きました日本ハンドボール協会、クラブチームカップ実行委員会の方々をはじめ関係者の方々に心より感謝申し上げます。

私達のチームは、第３回のクラブチームカップから連覇してきました。今回から日本ハンドボール協会主催となり、たくさんの方々がこの大会に携わっていただいた中、優勝することができました。

決勝で対戦しました霧島クラブとは春に二度対戦し、私たちは思うようなプレイができずに二試合とも同点という結果でした。大きな大会で自分たちのプレイが出来ないのはまだまだ練習が足りないと感じました。クラブチームカップに向けて、大会や練習を重ねるたびに一人一人が真剣な顔も、笑顔も多くなっていき心が一つになっていく中、優勝することを目標に今大会に臨みました。

迎えた決勝戦、初めは緊張してしまい自分を含めチームメイトは思うようなプレイができず相手に二連続点を取られてしまいましたが、持ち味の速攻で一点返すことができました。その後はミスが重なり苦しい場面が何度もありましたが、そこは普段から何度も何度も練習をし、どこのチームにも負けないくらいたくさん走り、得意としている速攻を前後半通して武器とした結果、優勝することができました。

チーム全員が勝利の為に一つの目標に向かい頑張る事ができたのは、仲間を想い謙虚を忘れず感謝の気持ちの大切さを教えて頂いた監督や、コーチの方々、ご多忙の中、今大会の為に協力して頂いた保護者、OG の方々からのご指導のおかげだと思います。

この結果に満足せずに、春の全国大会に向けて気持ちを切り替えて日々の練習に取り組んでいきたいです。またこの大会を通して素晴らしい環境でハンドボールが出来たこと、色々な方々に支えて頂いたこと、最高の仲間に出会えたこと、感謝の気持ちを忘れずに努力していきます。本当にありがとうございました。

●イベント
・表彰
・記念式典
・各種セミナー
・各種パーティー
・国際会議

●業務渡航
・海外航空券手配
・海外ホテル手配
・査証手続き
・トラベルサポート

●教育・研修旅行
・修学旅行
・語学研修
・ホームステイ
・各種体験学習
・ゼミ・各種合宿

●団体旅行
・社員旅行
・インセンティブ旅行
・視察旅行・研修旅行・海外スポーツ遠征
・国内スポーツ合宿
・貸切バス・周年旅行

●訪日外国人旅行
・公官庁主催招聘プログラム手配
・訪日されるお客様に合わせたプラン

株式会社 エモック・エンタープライズ
観光庁長官登録旅行業第1144号（一社）日本旅行業協会（JATA）正会員
●東京本社
〒105-0003　東京都港区西新橋 1-19-3　第2双葉ビル2F3F　TEL 03-3507-9777　FAX 03-3507-9771
●大阪支店
〒541-0047　大阪市中央区淡路町 4-3-8　タイリンビル7Ｆ　TEL 06-6203-7999　FAX 06-6203-7991
http://amok.co.jp/

男子決勝　広島メイプルレッズジュニア　29(18−11、11−13)24　大阪RSC

スタメン平均身長はメイプル 173.5 ㎝に対し大阪 RSC162.3 ㎝と、その差 11 ㎝強。大阪 RSC は５－１から３－２－１気味の運動量ある DF で強力な BP 陣を抑えようとのぞむ。メイプルはカットインやダブルポストで広くなったサイドから小澤が確実に得点を重ねる。大阪 RSC は早いリスタートやフリースローのコンビプレーで取り返そうとするが、パスミスが目立った。前半 10 分大阪 RSC のタイムアウト後コンビプレーから甲斐が鋭いロングシュートを決め、７対６と互角に持ち込む。その後も早い動きからスカイプレーや安川のスタンディングシュートが光ったがメイプル GK 風呂内の再三の攻守に阻まれ、またシュート直前のパスミスが重なった。メイプルは山下の高く早いミドルシュートが決まりだし、また両サイドから６得点を稼ぎ前半を 18 対 11 とリードして終える。

後半も積極的にカットを狙いプレッシャーをかけ続ける大阪 RSC のディフェンスに対し、メイプルはポストや個人技で対抗し前半同様サイドにシュートチャンスを作るが、何度も北地の固いキーピングに阻止される。大阪 RSC のスピードの落ちないリスタートやセット OF ではテンポのいい流れの中で新居に打ち込まれ、足の止まり気味なメイプル DF は３度の退場者を出す。後半は大阪 RSC が 13 対 11 と健闘したが、春中で準優勝したメイプルが最後まで慌てることなく逃げ切り、29 対 24 で念願の初優勝を飾った。

広島メイプル／荒瀬：７点、山﨑：３点、阪田：４点、林原：４点、小澤：５点、山下：６点
大阪 RSC ／新居：６点、田頭：２点、甲斐：７点、日根野：１点、長崎：３点、安川：５点

女子決勝　大阪ジュニアクラブ　31(16−10、15−14)24　霧島クラブ

大阪ジュニアクラブのスローオフで試合が開始。試合開始から霧島クラブの連続得点で勢いをつけた。しかし、大阪ジュニアクラブは、４－２の高いディフェンスから速攻で追い上げを見せた。霧島クラブもサイドシュートで得点を重ねるものの、大阪ジュニアクラブの高さのあるディフェンスに苦戦し、ミスからの速攻を許し、前半を 16 対 10 で折り返した。

後半になっても大阪ジュニアクラブの勢いは止まらず、大阪ジュニアクラブの退場者が出た時に点数を重ねるも、最後まで追いつくことはなかった。霧島クラブは左利きの川島、サイズのある篠原がチームを引っ張り、大阪ジュニアクラブは松山・小林のスピードあるプレーが特徴的だった。終始足がとまらなかった大阪ジュニアクラブが勝利し、全国の王者に輝いた。

大阪ジュニア／立岡：２点、播磨：４点、松山：８点、梅田：５点、廣本：４点、小林：８点
霧島／川島：７点、篠原：４点、佐藤：５点、鎌田：３点、藤谷：４点、矢口：１点

戦評

紹介：インカレ初出場校

福岡女子短期大学

福岡女子短期大学ハンドボール部監督　木下 健作

2016年春、本学園理事よりハンドボール部を立ち上げないかとのお話を頂戴する。長年にわたり男子ハンドに関わっていた私にとって女子と云うこと、短期大学と云うことで丁重にお断りをしたが、二度三度と続く打診に首を縦に振ることとなったのが2016年5月のこと。

立ち上げると決めてからは、九州一円をどぶ板営業に専念。大会会場で挨拶をする程度であった女子の世界。「成功を望むな挑戦するのみ」の甲斐があり、大学・短大から誘われていた者、専門学校を希望していた者、就職を考えていた生徒たちが進路変更。9名の素晴らしい学生に恵まれることとなる。

2017年3月中旬召集。一番星であろう者が左膝膝蓋骨骨折で6月一杯のリハビリ。センタープレイヤーが練習三日目で右肘脱臼、全治3か月。「1年生だけで全国大会へ」のスローガンが崩れていく。

2017年4月末、九州リーグ春季大会（2部）開幕。バックプレイヤー二枚抜きで初参戦、予想通りの苦しい戦いが続くもののロースコアを制し優勝。選手にはスタートラインに立てたと告げる。

2017年8月、「神様は私たちに成功してほしいなんて思っていません。ただ、挑戦することを望んでいるだけです。」をキャッチフレーズに九州リーグ秋季大会開幕を待つ。

初戦は大敗、2試合目からは僅差の勝利、想定通りに進んでいく。勝負の4試合目、春季リーグ終了後からこの試合のためにトレーニングを行ってきた。

秘策あり、秘密兵器あり、この間の3試合ではベンチを温めていた選手がいる。名前を珠莉愛と言う。彼女は本チーム一の負けず嫌い。しかしながら、彼女は先天性感音声難聴者であり左耳は全く聞こえない。右耳も補聴器をつけて30%程、試合では補聴器をつけられないため全く音を拾えない。

この珠莉愛がトップディフェンスを完璧にこなしたのである。4勝1敗の戦績にてインカレ出場権を得る。「1年生だけで全国大会へ」が実現する。

金 沢 星 稜 大 学

金沢星稜大学女子ハンドボール部次期主将　清水 紀子

1 部発足の歴史

　丸井一誠監督が着任した平成 26 年はハンドボールサークルができて 2 年目。当時の名簿の記録では女子 11 名は登録していました。週 1 回の練習でしたが、そこまで時間を割いて本気でハンドボールに取り組む学生がいなく、ほぼ全員辞めてしまいました。唯一辞めずに 4 年間ハンドボールを続けたのが 4 年生の田丸瑞稀さん（背番号 2 番）です。私たち 3 年生が入学した平成 27 年はサークル活動として週 2 回の練習を行い、初めて参加した試合はユニフォームではなく、ゼッケンで出場したことも今となっては良い思い出です。平成 28 年の春、これまでの活動が認められて、本学でサークル扱いから部活動へと昇格しました。昇格後の春のリーグでは嬉しくも 2 部優勝を成し遂げ、1 部昇格しました。昨年の秋リーグでは、あと一歩及ばず徳島インカレを逃してしまいました。今年で創設 5 年目になり、週 3 回 2 時間半の短期集中で練習をしています。

2 出場への軌跡

　私たちは他の大学に比べ人数が少ないため、合同練習・練習試合を多く行いました。石川県立寺井高校を始め石川県内外の高校にお邪魔させてもらいました。また長期休みには岐阜大学、同志社大学、京都教育大学の方と練習試合を行わせていただき、北信越では味わえないパワーや戦術、取り組みを体感することができました。私たちが初出場することができたのは多くの方のおかげです。ありがとうございました。

3 大会への抱負

　私たちは初心者が少なくなく、他の大学と異なりスポーツ推薦もないなか、インカレに初出場することはとても価値があることだと思っています。今大会で勝つことは難しいかと思いますが、一つでも多くのことを学び、来年に活かせるようにしたいです。また、功労者である 4 年生の瑞稀さんと挑める最後の大会となるため、楽しみ笑って送り出せるように頑張ります。

　北信越代表として精一杯戦います。応援よろしくお願いします。

紹介：インカレ初出場校

関西福祉科学大学

関西福祉科学大学ハンドボール部監督　山﨑 英幸

部の歴史を振り返れば、関西女子短期大学ハンドボール部が平成４年に産声を上げ、平成 17 年に大学と短大の合同チームとして関西福祉科学大学ハンドボール部が新たに結成されました。その後、平成 26 年女子１部 11 チーム制（現在は 10 チーム制）となるまで幾度か１部に昇格するも定着できない状況が続きました。

平成 26 年に入試制度改革で課外活動入試が導入されたことで部員数も徐々に増え、今年で課外活動入試の完成年度となることもあり、何とか成果を挙げたいと日々練習に励み、西日本インカレの地、福岡に降り立ちました。

女子の初戦は、東海リーグ３位の東海学園大学。試合開始から終始リードを許し一度もリードできないまま試合終了残り１分 20 秒にエースが決めて初めてのリード、その後 GK のファインセーブがあり 18 対 17 で勝利し、あとの２試合も勝ち切り全日本インカレの出場権を獲得しました。

悲願の全日本インカレに出場するにあたり、たくさんの方々から暖かいお言葉をかけていただき、選手たちも「とにかく１勝を！」という目標を立てて頑張っております。が、本学の特性上、この夏休みの８月、９月に２年生、３年生が教育実習や施設実習、栄養実習にと大忙しでまともな練習が出来ませんでした。９月下旬にようやくみんなが戻ってきましたのでこれからペースを上げていきたいと思っています。出場選手は、下級生が多くまだまだのチームですが、どこかにしっかりと爪痕を残し次年度以降に繋がる大会にしたいと思っています。

一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟・会長　木野　実

2020年の東京オリパラ招致が決定し東京に向け、昨年開催されたリオパラを見ましてもパラスポーツを取り巻く環境も大きな変化が出てきています。特にマスメディア報道は、従来にない取り扱いにより国民の関心、認知度も格段に高まりつつあります。

また国の政策、福祉、教育、スポーツ界、経済界等での理念の変遷は、インテグレーションからインクルージョンへ理念の転換が見られます。

そしてスポーツ基本法が成立（H23年6月）し、スポーツ自体の振興にとどまらず、障がい者の有無や男女、年齢等の違いをこえて誰もがスポーツを楽しむという社会の流れが生まれています。

さらにスポーツ庁ではH27年度5月の「地域における障がい者スポーツ普及促進に関する有識者会議」において、障がい者と障がいのない人が一緒に行うスポーツ活動の推進等の取り組みの充実が報告されています。

日本車椅子ハンドボール競技大会のプログラムには、日本ハンドボール協会渡辺佳英会長はじめ文部科学大臣、日本障がい者スポーツ協会島原光憲会長様各界から祝辞、激励をいただき、その中で共生型車椅子ハンドボール競技の取り組みを皆様方から高く評価され今後の発展が期待されています。

また鈴木大地スポーツ庁・長官も健常者が障がい者と共にプレーすることは普及面でも障がい者の理解促進につながる上でも大事だと言っておられます。

他の競技を見ましても車椅子バスケット（大学では東西で健常者と障がい者でリーグ戦）、ブラインドサッカー、アイスレッジ、ローリングバレーなど障がいの有無にかかわらず共にプレーしている競技もあります。

またウエルチェアーラグビーも障がい者と健常者のコラボをおこないスポーツを通して、人と人との距離を近づけ深い理解に繋がっています。最近では箱根駅伝を連覇した青山学院陸上部が「自分たちに何かできることはないか？」と積極的に盲人マラソンの伴走に協力する取り組みも行っています。

車椅子バスケットにおける障がい者と健常者競技者の関係性においては97.2%の競技者が健常者競技者とプレーした経験があり、また自分のチームに健常者選手が加入してほしいと思う人が80%を超えている調査研究があります。（びわこ成蹊スポーツ大学　河西正博助教）

障がい者スポーツの第一人者である藤田紀昭日本福祉大学教授は競技の普及促進の面でも障がい者と健常者が一緒にすることが大事だと常々述べられている。

車椅子等を移動するにも健常者のヘルパーも必要だし、障がい者の活動の充実やスポーツに関心のない障がい者のスポーツの出会いにつながっています。

日本サッカー協会（JFA）ではこれまで障がい者サッカーと健常者サッカーとは組織的な連携がありませんでしたが、「JFAグラスルーツ宣言」を発表し、7つの障がい者サッカー競技団体とで障がい者サッカー協議会を設置し、障がい者サッカー連盟が設立されました。

車椅子ハンドボールは多くの課題がありますが、これからの重点取り組みは

1）車椅子ハンドボールに出会える機会をつくっていく（各種大会、学校での体験会等）
2）車椅子ハンドボールの普及、振興を図り裾野を広げる（西日本、東日本で各20チーム）
3）すぐにプレーできるための、自前の車椅子の確保（財原の確保）
4）身近にできる活動場所の確保、公共施設の活用と理解を深める
5）分かりやすいルールの解説と漸次ルールの改正等
6）指導マニュアルの作成（障害や指導員の養成、資格取得推進、資質向上）
7）法人化（一般社団法人）に伴うコンプライアンス、ガバナンスの強化（2017年4月設立）

車椅子ハンドボール競技はこれまで発足以来小西博喜初代会長はじめ多くの関係者皆様のご尽力でここまで来ました。そして今年は第15回の記念全国大会（於　京田辺中央体育館）が11月11日（土）～12日（日）にて開催されます。多くの皆様が会場にお越しいただき、ご観戦、ご声援いただければ大変うれしいです。車椅子ハンドボールは障がい者スポーツの理念である「日本の活力ある共生社会の創造に向けて」さらに前進させたいと思いますので何卒よろしくお願い申し上げます。

夏の陣、頼もしい若い力

企画・広報委員
早川　文司

今年の夏は例年になく猛暑続きだった。各地から連日のように熱中症のニュースがテレビで報道されていた。これも地球温暖化の影響だろうか。将来に不安を覚えた人も多かったのではなかろうか。その異常気象もようやく峠を超え、朝晩はめっきり秋の気配が感じられ、ひと息つける環境に戻ってきた。いよいよスポーツの秋を謳歌できる季節到来と言っていいだろう。

そうした中、夏休み期間を活用して各地で大会が開かれ、暑さを吹き飛ばすように“熱い”戦いが繰り広げられた。３年後に迫った東京オリンピックのプラス効果も手伝ってか、若いハンドボーラーの生きのいいはつらつとしたプレーが大会を盛り上げたのは、喜ばしい限りだし、うれしさいっぱいである。

男子ユース（U-19）世界選手権では、史上初めて８位に食い込む活躍がみられた。女子は同じユース（U-18）アジア選手権で準優勝した。しかし、またしても韓国に頂点を譲ったのは、誠に残念でならない。以前から指摘されているように、世界で勝負するためにも、アジアでの戦いで韓国の厚い壁をどのように跳び越えるかである。

日韓定期戦でシグルドソン監督の代表デビュー戦となった男子は、終了寸前に追いつき手応えのある引き分けとなった。一時は逆転するなど「あるいは…」の期待を膨らませた勝負はお預けとなったが、大きな光が差し込んできた感じがする。

一方の女子は、後半は一進一退の展開を見せたものの、連続ゴールなどで大きく点差を広げられた前半の失点が響き大差がついた。

シニア、ジュニアともアジアの盟主になるためには、韓国、あるいは中国、中東対策は欠かせない。この長年のテーマの解消に、いっそう真剣に取り組むことが改めて証明された。

話は横道にそれたが、小中学生の戦いでは、いい意味での“異変”ともいえる現象が感じられる。

全国小学生大会、全国中学校大会は、男女いずれもが初優勝という結果になった。また、今年から日本協会主催になった全国中学生クラブチームカップの男子は、日本リーグ女子メイプルレッズの下部組織であるジュニアスポーツクラブが初優勝するなど、これまでの「ハンドボールどころ」を押しのけて好結果を出すなど、新鮮なムードが漂う。前回の優勝に続き今回は準優勝に輝いた春の全国中学生選手権での広島勢の戦いが目を引く。頼もしい限りである。

中・高校生が2020年に向け、さらに競り合って球界を盛り上げ、トップに刺激を与え続けてもらいたい。今後ますます“若い芽”の奮闘に期待したい。

100 Since 1917
確かな“技術力”。
これまでも、これからも。
MIKASA
HB3000
100
株式会社ミカサは、2017年５月１日
おかげさまで創業100周年を迎えました。
http://www.mikasasports.co.jp
これまで支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

スコアールーム１

高松宮記念杯第68回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

開催期日：2017年8月5日（土）～10日（木）
会　　場：福島市・あずま総合体育館、国体記念体育館、西部体育館、福島商業高校体育館

【男　子】

▼１回戦

神戸国際大付属（兵庫）	29	（12－９、17－10）	19	徳島市立（徳島）
江津（島根）	26	（８－６、18－13）	19	湯沢（秋田）
高山西（岐阜）	30	（17－８、13－９）	17	福島工業（福島）
昭和学院（千葉）	32	（17－９、15－20）	29	大体大浪商（大阪）
香川中央（香川）	47	（26－７、21－５）	12	青森（青森）
鹿児島工業（鹿児島）	26	（16－６、10－16）	22	静岡西（静岡）
山陽（広島）	20	（10－10、10－８）	18	法隆寺国際（奈良）
瓊浦（長崎）	28	（12－10、16－10）	20	富岡（群馬）
四日市工業（三重）	31	（12－10、19－10）	20	高知中央（高知）
明星（東京）	33	（17－12、16－15）	27	千原台（熊本）
大分雄城台（大分）	32	（13－８、19－14）	22	駿台甲府（山梨）
函大付有斗（北海道）	28	（15－８、13－14）	22	紀北農芸（和歌山）
博多（福岡）	23	（８－９、15－11）	20	小松工業（石川）
境（鳥取）	28	（16－６、12－13）	19	國學院栃木（栃木）
興南（沖縄）	18	（９－７、９－８）	15	松山工業（愛媛）
浦和学院（埼玉）	28	（12－８、16－12）	20	総社（岡山）

▼２回戦

法政大第二（神奈川）	40	（19－15、21－13）	28	神戸国際大付属（兵庫）
佐賀清和（佐賀）	28	（14－10、14－５）	15	江津（島根）
高山西（岐阜）	36	（17－10、19－14）	24	屋代（長野）
昭和学院（千葉）	27	（10－13、17－７）	20	小林秀峰（宮崎）
香川中央（香川）	27	（12－12、15－８）	20	藤代紫水（茨城）
鹿児島工業（鹿児島）	33	（14－４、19－６）	10	柏崎工業（新潟）
不来方（岩手）	31	（12－５、19－14）	19	山陽（広島）
北陸（福井）	33	（15－12、18－12）	24	瓊浦（長崎）
氷見（富山）	32	（11－16、21－11）	27	四日市工業（三重）
明星（東京）	30	（17－６、13－７）	13	北村山（山形）
大分雄城台（大分）	26	（15－13、11－９）	22	利府（宮城）
岩国工業（山口）	28	（11－６、17－８）	14	函大付有斗（北海道）
博多（福岡）	34	（16－７、18－14）	21	中部大春日丘（愛知）
近江兄弟社（滋賀）	21	（11－９、10－11）	20	境（鳥取）
学法石川（石川）	20	（10－７、10－11）	18	興南（沖縄）
洛北（京都）	29	（13－10、16－11）	21	浦和学院（埼玉）

▼３回戦

法政大第二	31	（16－４、15－６）	10	佐賀清和
昭和学院	30	（13－14、17－７）	21	高山西
香川中央	36	（16－４、20－７）	11	鹿児島工業
北陸	29	（15－９、14－９）	18	不来方
氷見	38	（19－19、19－16）	35	明星
岩国工業	26	（16－11、10－10）	21	大分雄城台
博多	33	（18－８、15－８）	16	近江兄弟社
洛北	31	（19－８、12－16）	24	学法石川

▼準々決勝

法政大第二	24	（10－10、14－13）	23	昭和学院
北陸	28	（12－11、16－12）	23	香川中央
氷見	32	（15－10、17－18）	28	岩国工業
洛北	35	（17－12、18－10）	22	博多

▼準決勝

法政大第二	33	（16－13、17－14）	27	北陸
氷見	35	（19－15、16－18）	33	洛北

▼決勝

法政大第二	38	（20－12、18－20）	32	氷見

【女　子】

▼１回戦

和歌山商業（和歌山）	33	（15－12、18－15）	27	屋代（長野）
玉野光南（岡山）	40	（18－７、22－11）	18	日大山形（山形）
飛騨高山（岐阜）	20	（９－９、11－９）	18	郡山女子大付属（福島）
今治東（愛媛）	27	（11－５、16－10）	15	栃木商業（栃木）
四日市商業（三重）	27	（17－７、10－13）	20	浦和実業（埼玉）
四天王寺（大阪）	28	（12－６、16－10）	16	神埼清明（佐賀）
立命館守山（滋賀）	32	（17－３、15－９）	12	新潟江南（新潟）
湯沢（秋田）	38	（21－６、17－８）	14	境（鳥取）
昭和学院（千葉）	26	（13－８、13－14）	22	福井商業（福井）
浦添（沖縄）	29	（12－５、17－５）	10	高知東（高知）
高岡向陵（富山）	31	（15－５、16－10）	15	富士（静岡）
日川（山梨）	33	（19－３、14－10）	13	いわき総合（福島）
小松市立（石川）	24	（10－８、14－８）	16	清峰（長崎）
神戸星城（兵庫）	18	（12－８、６－９）	17	高松商業（香川）

▼２回戦

佼成学園女子（東京）	37	（22－６、15－８）	14	和歌山商業（和歌山）
玉野光南（岡山）	25	（13－11、12－12）	23	大分（大分）
飛騨高山（岐阜）	36	（18－４、18－11）	15	松江市立女子（島根）
今治東（愛媛）	30	（15－10、15－８）	18	小林秀峰（宮崎）
不来方（岩手）	21	（７－11、14－８）	19	四日市商業（三重）
四天王寺（大阪）	34	（19－５、15－３）	8	池田（徳島）
富岡東（群馬）	33	（20－９、13－10）	19	立命館守山（滋賀）
明光学園（福岡）	30	（12－11、18－11）	22	湯沢（秋田）
名古屋経済大一郁（愛知）	37	（20－11、17－13）	24	昭和学院（千葉）
浦添（沖縄）	37	（19－10、18－３）	13	青森中央（青森）
高岡向陵（富山）	25	（11－12、14－12）	24	洛北（京都）
日川（山梨）	32	（12－13、20－11）	24	熊本城北（熊本）
聖和学園（宮城）	25	（14－５、11－８）	13	帯広三条（北海道）
高水（山口）	28	（15－７、13－12）	19	市立高津（神奈川）
小松市立（石川）	24	（９－11、15－10）	21	山陽（広島）
水海道第二（茨城）	43	（22－８、21－９）	17	神戸星城（兵庫）

▼３回戦

佼成学園女子	32	（15－６、17－12）	18	玉野光南
今治東	24	（15－７、９－10）	17	飛騨高山
不来方	21	（11－10、10－10）	20	四天王寺
明光学園	22	（13－８、９－８）	16	富岡東
名古屋経済大一郁	35	（16－10、19－９）	19	浦添
高水	41	（24－８、17－14）	22	聖和学園
高岡向陵	21	（12－６、９－10）	16	日川
水海道第二	28	（16－５、12－11）	16	小松市立

▼準々決勝

佼成学園女子	30	（14－４、16－13）	17	今治東
不来方	22	（11－９、11－10）	19	明光学園
高水	28	（16－14、12－10）	24	名古屋経済大一郁
水海道第二	35	（14－７、21－14）	21	高岡向陵

▼準決勝

佼成学園女子	20	（11－８、９－11）	19	不来方
高水	31	（16－10、15－13）	23	水海道第二

▼決勝

佼成学園女子	31	（16－４、15－13）	17	高水

スコアールーム２

第22回ジャパンオープントーナメント

開催期日：2017年8月5日（土）～8日（火）
会　　場：北陸電力福井体育館フレア・福井県営体育館・福井市体育館

【男　子】

▼１回戦

HC和歌山	31（15－10、16－8）18	埼玉クラブ
日新製鋼	31（19－8、12－10）18	チーム楽南
トヨタ紡織九州レッドインパルス	24（14－9、10－13）22	水街道鬼怒清流クラブjr
向陵クラブ	30（11－15、19－8）23	香川クラブ
FOG	36（18－4、18－11）15	山形新球会
トヨタ自動車	32（13－11、19－14）25	甲府クラブ
氷見クラブ	32（16－10、16－16）26	桜門クラブ
SOCIO OSAKA	34（15－10、19－9）19	HCサンワード
EHC	46（25－8、21－10）18	湖陵クラブ
HC同志社	37（21－14、16－14）28	富岡ハンドボールクラブ
北志クラブ	42（17－15、25－19）34	福島SGクラブ
フレッサ福岡	25（11－9、14－11）20	HC岐阜
HC岩手	24（13－12、11－11）23	HC岡山
下松クラブ	35（13－18、22－11）29	H.C.金沢
あい保険工房	33（18－8、15－13）21	FST
HONDA	31（17－14、14－9）23	HC彦根

▼２回戦

HC和歌山	36（18－11、18－7）18	日新製鋼
トヨタ紡織九州レッドインパルス	28（17－13、11－11）24	向陵クラブ
FOG	29（16－13、13－10）23	トヨタ自動車
SOCIO OSAKA	29（14－12、15－10）22	氷見クラブ
EHC	30（13－4、17－6）10	HC同志社
フレッサ福岡	27（14－11、13－11）22	北志クラブ
HC岩手	24（14－10、10－12）22	下松クラブ
HONDA	32（15－8、17－11）19	あい保険工房

▼準々決勝

HC和歌山	33（16－7、17－8）15	トヨタ紡織九州レッドインパルス
FOG	20（11－10、9－8）18	SOCIO OSAKA
フレッサ福岡	27（11－12、16－13）25	EHC
HONDA	28（17－8、11－10）18	HC岩手

▼準決勝

HC和歌山	26（14－8、12－9）17	FOG
フレッサ福岡	23（11－10、12－10）20	HONDA

▼３位決定戦

HONDA	20（12－7、8－9）16	FOG

▼決勝

HC和歌山	21（11－9、10－9）20	フレッサ福岡

【女　子】

▼１回戦

香川銀行T・H	46（24－6、22－2）8	BRHC
HC東京VENUS	23（11－10、12－7）17	白梅三英芙会
茨城鬼怒girls	25（10－10、15－10）20	Little Monster
ナデシコクラブ	27（17－13、10－14）27	那覇西クラブ
	6（3－1、3－3）4	
京都クラブ	41（18－9、23－9）18	古川ハンドボールクラブ
JJギャング	36（22－3、14－6）9	WOLFS
かながわガビアーノ	26（9－13、17－7）20	屋代クラブ
HC和歌山	27（15－10、12－7）17	コスモスビッキーズ

▼準々決勝

香川銀行T・H	36（20－6、16－5）11	HC東京VENUS
ナデシコクラブ	38（21－9、17－9）18	茨城鬼怒girls
JJギャング	34（18－6、16－5）11	京都クラブ
HC和歌山	30（15－7、15－11）18	かながわガビアーノ

▼準決勝

香川銀行T・H	52（24－8、28－5）13	ナデシコクラブ
JJギャング	26（16－11、10－11）22	HC和歌山

▼３位決定戦

HC和歌山	29（14－10、15－13）23	ナデシコクラブ

▼決勝

香川銀行T・H	22（16－12、6－6）18	JJギャング

スコアールーム３

第25回全日本マスターズハンドボール大会

開催期日：2017年8月11日（金）～13日（日）
会　　場：東京・エスフォルタアリーナ八王子

■男子順位決定型トーナメント

▼１回戦

IMPAL	14－7	Kioi
GG北海道	15－12	神楽坂
白石クラブ	13－13	蔵前如水会
小松	20－5	拝島B
GHBP	18－6	46G会
湘南	19－13	オールド
HC群馬	21－10	徳次郎
大阪	12－11	拝島A

▼２回戦

IMPAL	15－11	GG北海道
小松	14－12	白石クラブ
GHBP	13－12	湘南
大阪	22－14	HC群馬

▼５－８位決定戦

白石クラブ	12－11	GG北海道
湘南	17－12	HC群馬

▼準決勝

IMPAL	10－4	小松
大阪	15－13	GHBP

▼３位決定戦

GHBP	12－7	小松

▼決勝

IMPAL	14－10	大阪

■男子東京都協会理事長杯

神楽坂	14－10	Kioi
蔵前如水会	17－7	拝島B
46G会	23－15	オールド
拝島A	17－13	徳次郎
Kioi	14－5	拝島B
オールド	19－13	徳次郎
神楽坂	14－12	蔵前如水会
拝島A	12－10	46G会

▼３位決定戦

蔵前如水会	12－0	46G会

▼決勝

神楽坂	12－8	拝島A

■女子リーグ戦

NEWフェイス	12－9	梅の家
NEWフェイス	13－7	Gabbiano
NEWフェイス	20－6	徳山クラブ
M.L.N沖縄	14－12	NEWフェイス
M.L.N沖縄	16－8	Gabbiano
M.L.N沖縄	20－6	徳山クラブ
梅の家	14－8	Gabbiano
梅の家	18－7	徳山クラブ
梅の家	13－10	M.L.N沖縄
Gabbiano	12－10	徳山クラブ

【順位】①NEWフェイス、①M.L.N沖縄、③梅の家、④Gabbiano★DX、⑤徳山クラブ

スコアルーム4

第46回全国中学校大会

開催期日：2017年8月17日（木）～20日（日）
会　　場：那覇市・沖縄県立武道館、豊見城市民体育館、那覇市民体育館

【男　子】

▼１回戦

富岡南（群馬）	34（14－15、12－13）33 （4－3延長3－3）	沖縄東（沖縄）
明倫（福井）	39（19－16、20－10）26	横須賀（愛知）
岐陽（山口）	26（12－8、14－12）20	大住（京都）
高砂（宮城）	27（10－11、17－12）23	神埼（佐賀）

▼２回戦

大体大浪商（大阪）	30（15－12、15－10）22	富岡南（群馬）
甲田（広島）	36（15－7、21－16）23	東山（岐阜）
土浦第三（茨城）	23（11－9、12－10）19	塩江（香川）
松橋（熊本）	39（19－15、20－22）37	明倫（福井）
岐陽（山口）	28（12－14、16－9）23	東久留米西（東京）
神森（沖縄）	33（15－9、18－6）15	藤野（北海道）
培良（京都）	28（13－16、15－11）27	氷見北部（富山）
滝ノ水（愛知）	30（16－7、14－11）18	高砂（宮城）

▼準々決勝

甲田	32（15－15、17－13）28	大体大浪商
松橋	25（13－10、12－11）21	土浦第三
神森	32（14－14、18－14）28	岐陽
滝ノ水	33（19－9、14－12）21	培良

▼準決勝

甲田	35（16－15、19－16）31	松橋
滝ノ水	23（11－7、12－8）15	神森

▼決勝

滝ノ水	25（12－6、13－9）15	甲田

【女　子】

▼１回戦

三郷北（埼玉）	25（14－10、11－14）24	望海（兵庫）
大住（京都）	21（9－5、12－11）16	香川第一（香川）
末武（山口）	24（11－12、13－8）20	笹川（三重）
朝明（三重）	16（5－8、8－5）15 （4－3延長3－3）	粕屋（福岡）

▼２回戦

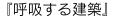
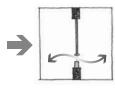
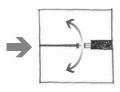
原川（大分）	34（15－8、19－8）16	三郷北（埼玉）
岩国（山口）	17（8－9、9－4）13	芦城（石川）
神森（沖縄）	21（12－7、9－12）19	石川（福島）
扇台（愛知）	21（9－7、12－12）19	大住（京都）
東久留米西（東京）	37（15－11、22－9）20	末武（山口）
仲西（沖縄）	29（15－6、14－7）13	本通（北海道）
氷見北部（富山）	31（16－10、15－9）19	水海道西（茨城）
住吉第一（大阪）	22（12－6、10－4）10	朝明（三重）

▼準々決勝

原川	25（11－8、14－7）15	岩国
神森	13（7－1、6－8）9	扇台
東久留米西	32（16－11、16－13）24	仲西
住吉第一	31（14－4、17－12）16	氷見北部

▼準決勝

原川	23（8－10、15－8）18	神森
住吉第一	19（9－13、10－5）18	東久留米西

▼決勝

原川	21（10－6、11－10）16	住吉第一

『呼吸する建築』　『ナビ ウインドウ 21』NAV WINDOW 21

Swindow●スウィンドウ

Wincon●ウィンコン

Cavcon●キャブコン

三協アルミ社　営業開発部
〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル18F　TEL(03)5348-0360 http://www.nav-window21.net/

スコアルーム５

第8回全国中学生クラブチームカップ

開催期日：2017年8月13日（日）～15日（火）
会　　場：大阪府堺市・坂井市金岡公園体育館、堺市立大浜体育館

【男　子】

▼予選Ａグループ

ヴァルト岐阜　39（18－12、21－6）18　永平寺ブルーロケッツ
ヴァルト岐阜　52（25－1、27－8）9　HC栃木
永平寺ブルーロケッツ　33（15－9、18－9）18　HC栃木

▼予選Ｂグループ

大阪RSC　35（19－1、16－16）17　EHCユース
大阪RSC　42（24－4、18－4）8　津山HC
津山HC　19（11－6、8－6）12　EHCユース

▼予選Ｃグループ

徳島クラブ　34（18－10、16－20）30　HC山形ユース
霧島クラブ　34（16－7、18－7）14　LHC静岡
霧島クラブ　34（22－7、12－13）20　徳島クラブ
LHC静岡　41（26－8、15－9）17　HC山形ユース

▼予選Ｄグループ

広島メイプルJr.　34（18－13、16－14）27　とびうめジュニア
諫早HC　36（18－8、18－14）22　HC千葉Jr.
広島メイプルJr.　36（15－9、21－15）24　諫早HC
とびうめジュニア　37（17－13、20－14）27　HC千葉Jr.

■ Interleague

HC千葉Jr.　25－15　HC山形ユース

■ 9－12位決定戦

EHCユース　35（19－10、16－9）19　HC栃木
とびうめジュニア　28（15－12、13－9）21　LHC静岡

▼ 11－12位決定戦

LHC静岡　27（14－3、13－1）4　HC栃木

▼ 9－10位決定戦

とびうめジュニア　48（29－4、19－11）15　EHCユース

■ 5－8位決定戦

永平寺ブルーロケッツ　25（12－7、13－14）21　津山HC
諫早HC　34（20－7、14－20）27　徳島クラブ

▼ 7－8位決定戦

徳島クラブ　23（11－11、12－8）19　津山HC

▼ 5－6位決定戦

諫早HC　35（19－7、16－15）22　永平寺ブルーロケッツ

▼準決勝

大阪RSC　29（15－13、14－12）25　ヴァルト岐阜
広島メイプルJr.　35（19－12、16－10）22　霧島クラブ

▼ 3位決定戦

ヴァルト岐阜　26（12－12、14－10）22　霧島クラブ

▼決勝

広島メイプルJr.　29（18－11、11－13）24　大阪RSC

■普及型

キタイイーグルス　24（11－7、13－6）13　つくばHCユース
キタイイーグルス　32（17－11、15－8）19　高知JHC
つくばHCユース　15（8－6、7－8）14　高知JHC

【女　子】

▼予選あグループ

大阪ジュニアクラブ　45（23－9、22－9）18　メーヴェン釧路
大阪ジュニアクラブ　57（25－6、32－2）8　South-lead
メーヴェン釧路　43（17－5、26－4）9　South-lead

▼予選いグループ

貝塚バーディーズ　26（13－3、13－7）10　HC栃木
貝塚バーディーズ　40（15－4、25－8）12　EHCユース
HC栃木　22（10－10、12－9）19　EHCユース

▼予選うグループ

とびうめジュニア　25（12－9、13－7）16　7beat
とびうめジュニア　41（22－8、19－3）11　広島メイプルJr.
7beat　32（17－1、15－6）7　広島メイプルJr.

▼予選えグループ

霧島クラブ　26（10－4、16－3）7　長崎ジュニア
霧島クラブ　29（17－1、12－1）2　HC静岡
長崎ジュニア　32（15－2、17－3）5　LHC静岡

■ Interleague

EHCユース　20－5　South-lead
広島メイプルJr.　12－10　LHC静岡

■ 5－8位決定戦

メーヴェン釧路　33（17－2、16－3）5　HC栃木
7beat　27（15－9、12－6）15　長崎ジュニア

▼ 7－8位決定戦

長崎ジュニア　30（16－6、14－10）16　HC栃木

▼ 5－6位決定戦

7beat　25（14－6、11－16）22　メーヴェン釧路

▼準決勝

大阪ジュニアクラブ　27（16－9、11－13）22　貝塚バーディーズ
霧島クラブ　21（11－8、10－7）15　とびうめジュニア

▼ 3位決定戦

貝塚バーディーズ　17（8－9、9－6）15　とびうめジュニア

▼決勝

大阪ジュニアクラブ　31（16－10、15－14）24　霧島クラブ

■普及型

豊里HC　31（12－1、19－0）1　HC山形ユース
豊里HC　33（13－1、21－1）2　HC山形ユース